

バンダイキャラクター研究所 時代レポート Vol.5

「母親としての自分」を表現し始めた女性たち
～絵本ブームに見る、新しい母親像～

「新しい絵本意識に関する調査」結果報告書

2003年10月6日

株式会社バンダイ キャラクター研究所

はじめに

今、キャラクタービジネスは大きな変化を迎えている。

これからのマーケットを考えるにあたってのキーワードは「母親」だと言っていい。

かつて、女性は結婚し出産することで「自分」を捨て「母親」になった。それは、言わば「役割」としての「母親」だ。

今、女性たちは「母親としての自分」を表現し始めた。「役割」を超え「母親としての自分」を楽しみ始めたと言ってもいい。たくさんの情報と行動力を持つ女性たちであるから、当然家庭の中心も「母親」になる。かつては子供が握っていた子供向け商品(とりわけキャラクター商品)の選択権も今では「母親」が握るようになりつつある。

これからのキャラクタービジネスは、こういった新しい母親たちの動向に大きく影響されると考えていい。

彼女たちを味方にするか、敵にするかで事態は大きく変わってくる。

では、「彼女」たちは、今「母親」として何を考え、何を求めているのか？

2003年8月、新高輪プリンスホテルで行なわれた「絵本カーニバル2003」には3万人を越える若いお母さんと子供たちが足を運んだ。夏の子供イベントが全般に低調だったのに比べると、その盛り上がりぶりは際立っていた。

この調査レポートは、絵本ブームを通じて見える新しい母親たちの意識変化についてまとめたものである。

バンダイキャラクター研究所 所長
相原博之

<バンダイキャラクター研究所の主な研究活動>

- 2000年 5月 バンダイキャラクター研究所設立
- 10月 時代レポート第1弾「キャラクターに癒しを求める現代人」発行
- 11月 キャラクター研究者育成支援制度設立
- 2001年 3月 第1回キャラクター研究者育成支援制度受賞者発表
- 3月 時代レポート第2弾「“友達と共につくるドラマ”としてのカードバトル」発行
- 8月 時代レポート第3弾「エルダーとキャラクターに関する調査」発行
- 9月 香山リカ氏との共著「87%の日本人がキャラクターを好きな理由」(学研)発刊
- 2002年 3月 第2回キャラクター研究者育成支援制度受賞者発表
- 6月 時代レポート第4弾「サザエさん主義の時代」発行
- 2003年 3月 第1回・第2回キャラクター研究者支援制度研究レポート提出
- 10月 時代レポート第5弾「母親としての自分を表現し始めた女性たち」発行

●目次●

研究概要	4
定量調査実施概要	5
総括	6
調査結果サマリー	11
絵本の関心度・必要度	12
絵本支持層のクラスター分類	13
クラスター別にみる「絵本の良さ」	14
絵本の価値構造	15
クラスター特性一覧	16
調査結果詳細Ⅰ 絵本との接触状況	18
絵本に対する関心度	19
絵本の必要度	20
絵本の読み聞かせ頻度(現在/意向)	21
絵本を読んであげる場面	22
1年間の絵本購入冊数(子供向け/自分向け)	23
子供向け絵本の買い方	24
絵本関連イベント参加状況(経験/意向)	25
絵本情報収集の積極度&情報入手経路	26
調査結果詳細Ⅱ 絵本に求めること	27
絵本とはどのようなものか	28
絵本の良さ	29
絵本を読んであげる時に感じること	30
子供に積極的に読んであげたい絵本	31
子供に積極的に読んであげたい絵本のジャンル	32
お気に入りの絵本	33
子供向け絵本の購入重視点	34
調査結果詳細Ⅲ 絵本意識の背景にある価値観・行動	35
日常生活の中で特に大切にしたいと思うこと	36
子供の成長のために重要だと思うこと	37
子育ての方針	38
日常生活における意識や行動	39
普段感じているストレス	40
フェイスシート	41

研究概要

今回の研究は、以下のような流れで進めた。

問題意識

- 最近の若い母親の絵本に対する意識が、従来とは変わってきているような気がする…。

基礎情報収集

- オープンデータ収集
- 流通取材

仮説構築

- オープンデータ分析
- 流通取材結果分析
- ブレインストーミング

仮説検証

- 定量調査実施
- クラスター分析

結果分析・まとめ

定量調査実施概要

■目的

最近の若い母親の中に芽生えてきていると思われる“新しい絵本意識”、及び、その背景にある日常意識・価値観を探る。

■対象者／サンプル数

1-3歳児を持つ25-29歳女性:178人

1-3歳児を持つ30-34歳女性:176人

1-3歳児を持つ35-39歳女性:176人

4-6歳児を持つ25-29歳女性:176人

4-6歳児を持つ30-34歳女性:177人

4-6歳児を持つ35-39歳女性:180人

計:1063人 ※今回の調査では「未就学児」を対象とした。

■方法

インターネット調査

■地域

全国

■実施日程

2003年6月20日(金)～6月23日(月)

■調査項目

◎絵本に対する関心度

◎絵本の必要度

◎絵本の良さ

◎絵本を読んであげる頻度/読んであげたい頻度

◎絵本を読んであげる場面

◎絵本を読んであげる時に感じること

◎子供に積極的に読んであげたい絵本/ジャンル

◎絵本情報への積極度

◎絵本購入冊数/購入意向冊数

◎絵本イベント参加状況/意向

◎子育てに対する意識/方針

◎日常生活における意識・行動

◎フェイスシート

※レポート中のMA=複数回答、SA=単数回答、FA=自由回答を表す。

今回の調査で「絵本に関心がある」と回答した母親は全体の93%。そして、実に半数近く(48%)の母親が子供への絵本の読み聞かせを週4回以上行っていた。週1回以上まで入れると86%にもなる。また必要度でも、97%の母親が絵本を必要だと思っており、これは「お出かけ／家族旅行」(94%)よりも高く、「父親」(96%)と並ぶほど重要であることを示している。このうち、「かなり必要」という回答に絞ってみても、絵本は66%と「お出かけ／家族旅行」(54%)を上回り、玩具(39%)やテレビアニメ(10%)を大きく引き離している。母親の絵本への関心の高さがうかがえる。

なぜ、こんなにも絵本が支持されているのだろうか？

なぜ、今「絵本ブーム」なのだろうか？

今までの絵本は、子供のためのもの

今の母親が子供の頃、多分、当時の大半の母親たちは、絵本は「子供のためのもの」と考えていた。絵本は、子供の好奇心を満たす楽しいものであり、与えておけば子供をとりあえず静かにしておけるというような「子供の娯楽」だった。

そして、もちろん「子供の教育」的な意味合いも大きかっただろう。子供が文字や言葉に親しむ「知育」、ものの善悪や世の中のルールを学ぶ「道徳教育」、さらに、その色彩やテーマから豊かな心を形成していく「情操教育」のツールとして、絵本は読まれた。

こうした母親の思いを受けて、子供たちは、与えられた絵本の美しい絵や色彩やストーリーに胸躍らせ、母親の体温や呼吸を感じながら、繰り出される物語に入り込んでいった。

一昔前までは、絵本とはそんな「子供のためのもの」であったような気がする。

いまや、絵本は、母親のものになった

しかし、昨今の絵本ブームを見ていると、絵本に対する価値観が変化していることに気づく。今の母親は、どうやら子供だけのものとして絵本を購入しているのではなさそうだ。絵本は、「母子のコミュニケーションツール」の意味を持ち始め、さらに、「母親にとってのコミュニケーションツール」という意味合いを濃くしつつある。調査結果でも、「絵本を読んであげる時に感じること(現在、子供に絵本の読み聞かせをしている人へ聴取)」の1位、「子どもが楽しんでいる」(76%)に続くのは、「子どもとの会話がとても楽しめる」(48%)、「子どものぬくもりが感じられる」(40%)、「子どもに安らぎを感じてもらっている」(39%)という、母子の交流に由来するものになっている。そこには、子供よりもむしろ母親のためのものというニュアンスが感じられる。「子どもから自分への愛情が確認できる」(12%)という回答も見逃せない。

そして、さらに注目されるのは、絵本の良さを「母親自身の娯楽」(15%)とか「自分自身の気分転換」(24%)と回答する人たちである。生活の中で、ゆとり／センス／知性を感じられるものと回答する人たちも少なくない。この新しい絵本支持層は、母親自身がほっとしたり、ゆったりできたり、心安らいだり、優しい気持ちになれる、そんな新しい価値を絵本に認めている。

明らかに「自分自身にとっての価値」を認める層が台頭してきていると言える。

こうして、絵本は、「子供の娯楽」、「子供の教育」といった子供のためのものから、「親子の交流」、「自分の娯楽やセンス」といった母親のためのものへと、その価値を広げていった。

読み聞かせは、母子の繋がりが感じられる、短くても濃密な時間

母親が絵本に安らぎやゆとりを求める、その社会背景には何があるのだろうか？

世の中は、不安でいっぱいである。近年、少年犯罪はますます低年齢化しており、いじめや不登校、学級崩壊など、子を持つ母親を怯えさせるような事件ばかりが目につく。先日の新聞記事によれば、「少年凶悪犯罪は10年前の倍に」達した。また、若い父親や母親による幼児虐待の記事も目につく。さまざまなストレスが親の心をゆがませ、信じられないような事件が起こっている。マスコミは親の愛情不足を理由にしがちだ。そして、事件が起こる度に、親は非難され、次第に大きなストレスとなっていく。

こうした背景から、多くの母親たちは、子育てに対して漠然とした不安を抱え、荒んだ心の子供にしないために、そして母親自身の自信と穏やかな心を取り戻すために、あたたかい時間、ゆったりとした時間を今まで以上に欲しているのではないだろうか。

本調査結果からも、9割近くの母親が何らかのストレスを感じていることがわかった。特に強いのは、「子どものために自分の行動や時間が制限されること」(52%)、「育児に対する不安や親としての責任に対するプレッシャー」(44%)だが、「子どもとの時間が十分に取れないこと」と答えている人も20%存在する。

自由回答の中で、「忙しい中でも、読み聞かせのひとつきを貴重で大切な時間と感じている」という、働く母親の回答が多く見られた。それは、子供と接する時間が少ないからこそ、この短い時間に子供とのより深い繋がりを求めているからだ。一方、専業主婦も、「読み聞かせは他ではなかなか得られない大切な時間」と感じている。それは、自分の時間が持てないからこそ、子供と一緒に自分がゆったりした気分になれるものを求めているからである。

母親は、絵本を読み聞かせるうちに、実はそれが自分の心を癒してくれていることに気付いた。絵本の読み聞かせによって、母も子も、お互いの体温や愛情や繋がりを感ずることができ、短くても濃密な時間が過ごせる。それは、子供をぎゅっと抱きしめている感覚にも近く、誰にも邪魔されず二人だけの時間と空間を作れるすごく幸せなひとときなのだ。そして、実は自分が元気にもなっている。

自信を失いかけた時でも、自分が母親であるということを確認し、喜びを得られるもの、それが絵本なのではないだろうか。

絵本は、母親が生活を自分らしく演出できる大切なツール

変化の背景にあるのは、ストレスだけではないだろう。母親の子育て観やライフスタイルの変化も、当然その裏にある。

今の母親は大概、昔の価値観に縛られたくはないし、子供が生まれたことで自分の生活を大きく変えたくないと思っている。できれば、おしゃれな母親でいたいし、自分の時間も作りたいと思っている。しかし、それは決して、家事や子育てを放棄して遊びに行きたいということではない。本調査結果の「日常生活における意識や行動」を見ても、「古くてもいいものは使う」(64%)の次にくるのは、「周りの人も幸せであってほしい」(57%)、「自分の生き方も大事にしている」(56%)、「自分のペースでやるほうだ」(52%)であり、自分のペースを大事にしながらも周囲への思いやりを忘れてはいない。つまり、彼女たちは、自分と同時に子供も満足させてくれるものを求めているのだ。

絵本はその気持ちを満足させてくれるものである。

例えば、子供がいると、リビングにものが溢れがちである。しかし、そこにあるものが自分にとって心地よいものであれば、おしゃれな生活も楽しめる。彼女たちにとって、絵本は、生活の中にあっても邪魔にならない上質なものであり、ゆとり、ファッションなのである。

また、絵本は、テレビやビデオと違って自分のペースが作れるし、少ない文字数だからこそ奥深いものがある。そして、そういうものだからこそ、「絵本を読んであげるお母さん」は、「一緒にテレビを見てあげるお母さん」よりも、彼女たちの思う理想のお母さんになれる。おまけに、絵本は、自分自身が楽しむのにも、こむずかしくなく、内容もシンプルで絵も楽しめて、いつでも簡単にゆったり気分になれる。

子供との時間がある母親でも、「絵本は母子二人が楽しめる数少ないものの一つ」と答えている人が多いのは、おもちゃやテレビでは、子供を遊ばせるだけで、案外、自分は楽しめていないからだ。母として子供が喜んでくれるのは嬉しいし、いろんなことを体験させるのは子供にとっても必要なことだと思っている。しかし、それだけでは十分な満足感を得られない。絵本とは「ちょっとハイソな母親」を演じることができるものという意識も、母親に、より高い満足感を与えているのではないだろうか。子供を喜ばせるものが絵本という(母親にとって)上質なものであれば、母親の嬉しさももっと上質なものになるのだ。

部屋に絵本を飾る・・・開かなくてもそこにあるだけでなんだか嬉しい。絵本をいつも読んでいなくても、表紙を見ているだけで生活のゆとりが感じられる。子供と一緒に読んでいるそのシーンが想像される。絵本は、母親にとって、生活を自分らしく演出できる大切なツールにもなっている。

自分のために、自分の目で絵本を選ぶ母親たち

自分を癒してくれる絵本を求め、絵本で自分らしさを演出する母親。
では、彼女たちは、どんな絵本を選んでいるのだろうか。

総括

「絵本購入時に重視するポイント(この1年間に、子供のために絵本を購入した人に聴取)」は、2位の「価格の手頃さ」(59%)を除けば、「作品のテーマ」(63%)、「絵のタイプ」(57%)、「色使い」(52%)と、内容やビジュアル面での要素が上位に挙がっている。

また、「積極的に読んであげたい絵本(現在、子供に絵本の読み聞かせをしている人へ聴取)」として、「子どもの創造力や感受性が豊かになる」(91%)、「子どもの好奇心が刺激される」(69%)という絵本の基本的な要素に加えて、「子どもと一緒に指差したり、めくったり、探したりが楽しめる」(61%)、「色がきれい」(60%)、「それを通して親子の会話が弾みそう」(51%)、「自分自身も楽しめる」(48%)と、母子の交流や自分の娯楽に繋がるものを選んでいく。

今後この傾向はますます強くなり、より「子供にも自分にも楽しめるもの」「自分が気持ちよくいられるもの」「生活の潤いとなるもの」を求めるようになるだろう。

自分も満足できるもの…つまり、それは絵本選択の決定権が母親に移ることを意味する。子供に選ばせたとしても、母親はますます自分の目でも絵本を選ぶようになるはずだ。「人から良いと勧められた絵本」や「昔からの名作絵本」を与えるだけではなく、母親自身が選んだ絵本を我が子に読み聞かせるという行為は、実に能動的であり、今後、母子の繋がりを強くし、子供たちの個性や感性を引き出していくことができるのではないだろうか。

こういった傾向の顕著な母親たちを、我々は「自分の楽しみ派」と呼んでいる。

今回の分析によって、絵本の支持層は「子供の娯楽派」「道徳・知育派」「親子の交流派」「自分の楽しみ派」の4クラスターに分類された。そして、分析結果から面白いことがわかった。それは、この4クラスターは、絵本について別々の価値を見出しているのではなく、新しい支持層ほど、今までの価値にプラスして新しい価値を認めているということだ。

1. 「子供の娯楽派」は、絵本に対して、子供が喜べばそれで十分という、絵本の本来的な価値にしか気づいていない
2. 「道徳・知育派」は、これに加えて教育的要素も認めるようになる
3. 「親子の交流派」は、さらに、親が一方向的に与える価値だけではなく、子供との言葉や感情のやりとりを重視する
4. 「自分の楽しみ派」は、この3つに加えて、自分にとっての価値を感じている

「自分の楽しみ派」は、絵本にすべての価値を認めている層だから、当然絵本に対して関心が高いし、情報を集めることに手間を惜しまない。「自分の楽しみ派」では、絵本を毎日読み聞かせる人が46%、1年間に子供に20冊以上絵本を買った人が15%もいる。

新しい母親たちが、今後の「子供」商品の消費リーダーとなる

この、「自分の楽しみ派」に代表されるような新しい母親たちは、絵本に留まらず、何に対しても関心を高く持ち、情報を集めている。だからといって、流行に踊らされるのではなく、広く情報を集めた上で、自分の判断基準でものごとを選択しているのだ。

総括

彼女たちは、家族の為には身体に良いものを選び、周りの人たちの幸せを願い、地球環境にも配慮を怠らないスローライフを楽しむ新しい人たちである。優しい母親でもありたいし、自分の人生を楽しむその姿を見せることが、子供のため、家族のためになると考えている。そして、それをできる範囲(身の丈)で実践している。

つまり、生き方についても、独り善がりではなく、かといって、かつての母親のように自分の生活を我慢し続けるつもりもない。彼女たちは、母親であることを楽しんでいる。母親になったことは「制約」ではなく、むしろ、「自分の生活を楽しく豊かにするチャンス」なのだ。そして、彼女たちは、「母親という楽しみ」を自分らしく生活に取り入れ、まわりのあらゆるところで「母親としての自分」を表現することに、喜びを見出し始めた。何事も肯定的に捉えることのできる、とても前向きでポジティブな明るい母親といえるのではないだろうか。

彼女たちこそ、これからの絵本市場を引っ張るマーケットドライバー層といえるだろう。そして、同時に、自分の目で良いものを選びたいという、生活へのこだわりからも、これからの社会を切り開く意欲を持った注目すべき層だといえる。この人たちと絵本の関わり方を注視していくことは、「家族」や「母親」、「子供」といったテーマでものを捉える際にも、非常に重要になってくるだろう。そして、「子供」商品の消費の中心層になると考えられるこの母親層について、我々は、より深く知っていくべきであろう。

母子のコミュニケーションツールになること
まず母親がはまること
母親が納得するような、おしゃれ感を持っていること

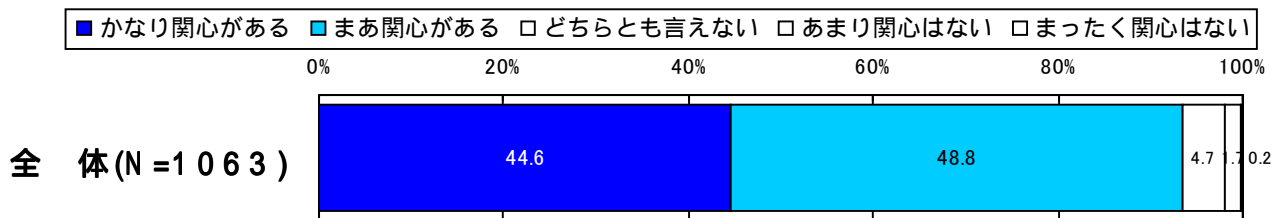
これからの子供商品やサービスのポイントは、こんなところにあるのかもしれない。

調査結果サマリー

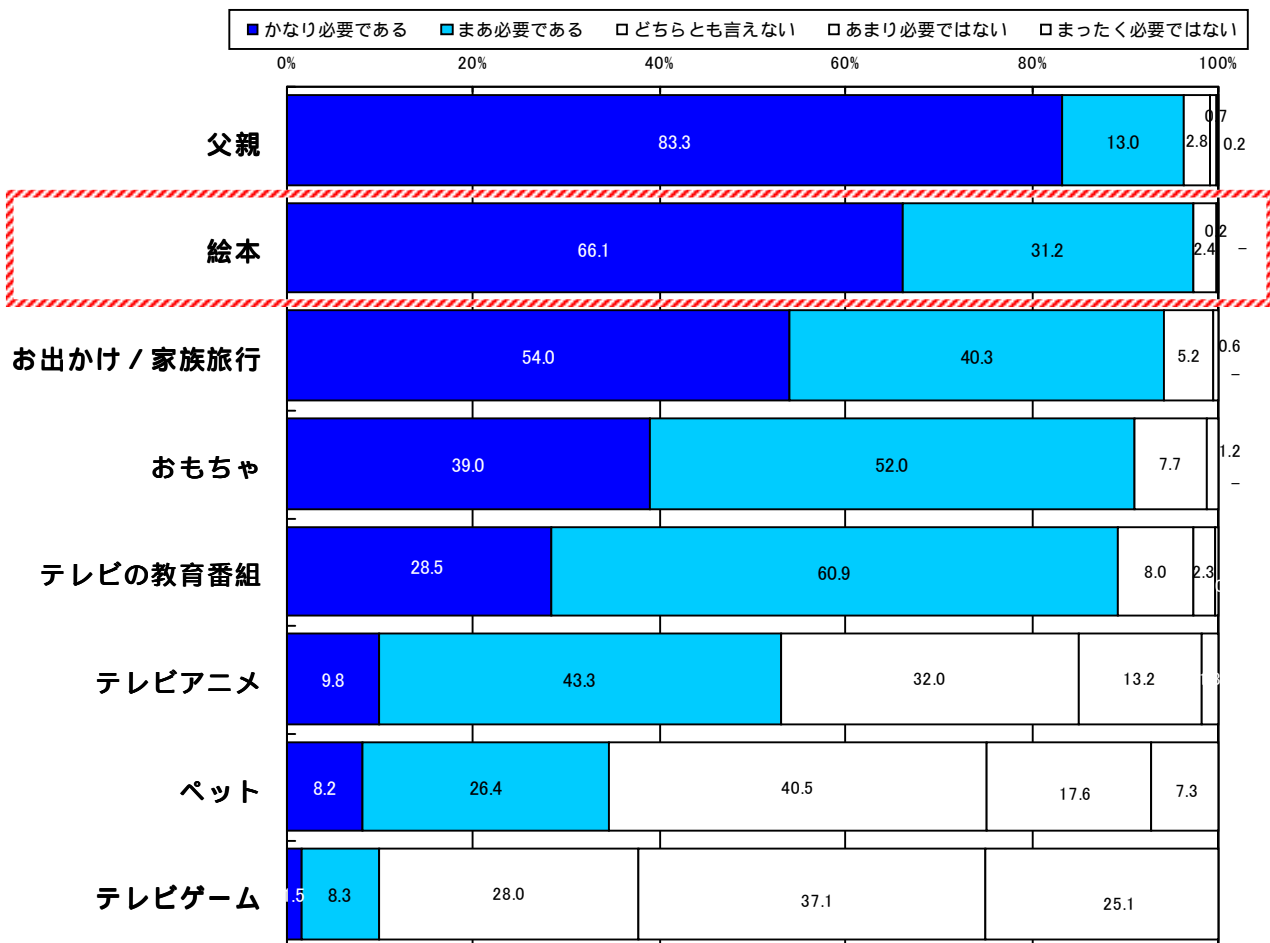
絵本の関心度・必要度

1～6歳の幼児を持つ母親の実に93%が絵本に関心を持っている。
また、97%が絵本を必要と思っている。これは、「家族旅行」よりも多く、
「父親」と並ぶほど重要であることを示している。

●絵本に対する関心度●



●絵本の必要度● (全体:N=1063)



絵本支持層のクラスター分類

絵本に対する関心をより深く分析するにあたり、「絵本の良さ」に着目した。ここでは、今の母親の絵本に対する意識が端的に表れていると思われるからである。
そこで「絵本の良さ」について因子分析を行った結果、4つの因子が抽出できることを確認した。

※数値は因子負荷量
その項目がどれだけ各々の因子を説明しているかを表す数値

絵本の良さ	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4
自分自身の気分転換になる	0.677	0.080	0.067	0.022
自分自身の娯楽	0.594	0.058	-0.003	0.184
生活の中でゆとりが感じられる	0.493	0.205	0.205	0.069
生活の中で知性が感じられる	0.408	0.103	0.114	0.198
身近な芸術として親しめる	0.370	0.248	0.158	0.075
自分の価値観を子どもと共有できる	0.346	0.188	0.293	0.078
子どもに愛情を与えられる	0.117	0.758	0.181	0.086
子どもに安らぎを与えられる	0.209	0.651	0.205	0.021
子どもとの会話が楽しめる	0.196	0.352	0.301	-0.011
子どもとのスキンシップが楽しめる	0.129	0.328	0.245	-0.011
子どもから自分への愛情を確認できる	0.279	0.320	0.260	0.081
子どもが物事の善悪や人への思いやりを学べる	0.048	0.161	0.585	0.047
子どもが文字や言葉を覚えられる	0.123	0.049	0.444	0.050
子どもの好奇心が満たされる	0.066	0.114	0.378	0.019
子どもの情感が豊かになる	-0.010	0.231	0.362	-0.030
子どもが楽しめる	0.099	0.089	0.278	0.006
自分にとってのファッション	0.181	0.019	-0.021	0.714
自分のセンスを表現できる	0.162	0.043	0.086	0.709

調査＝「そう思うもの」を複数回答
分析＝主因子法：Kaiserの正規化を伴わないバリマックス法にて実施

絵本の良さとして認められる価値因子

自分の娯楽

親子の交流

道徳・知育

センス・ファッション

このように「絵本の良さ」が持つ4つの価値の中に、「自分の娯楽」「ファッション・センス」といった従来にはなかったと思われる要素が認められている。つまり、絵本と接する際に新しい意識・行動をもった人々が生じていることを予想させた。

これに基づきk-means法によりクラスター形成を行ったところ、4クラスターで分類すると、各クラスターの因子スコアの平均値は以下ようになった。

そこで各クラスターを以下のように解釈・命名した(なお、「子供の娯楽派」については、次ページ以下の分析も加味して命名)。

クラスター No	自分の娯楽	親子の交流	道徳・知育	センス・ファッション
1	-0.247	0.818	0.283	-0.103
2	-0.223	-0.500	-0.888	-0.048
3	1.444	0.538	0.480	0.331
4	-0.295	-0.713	0.361	-0.017

クラスター

親子の交流派

子供の娯楽派

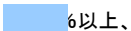

自分の楽しみ派

道徳・知育派

クラスター別にみる「絵本の良さ」

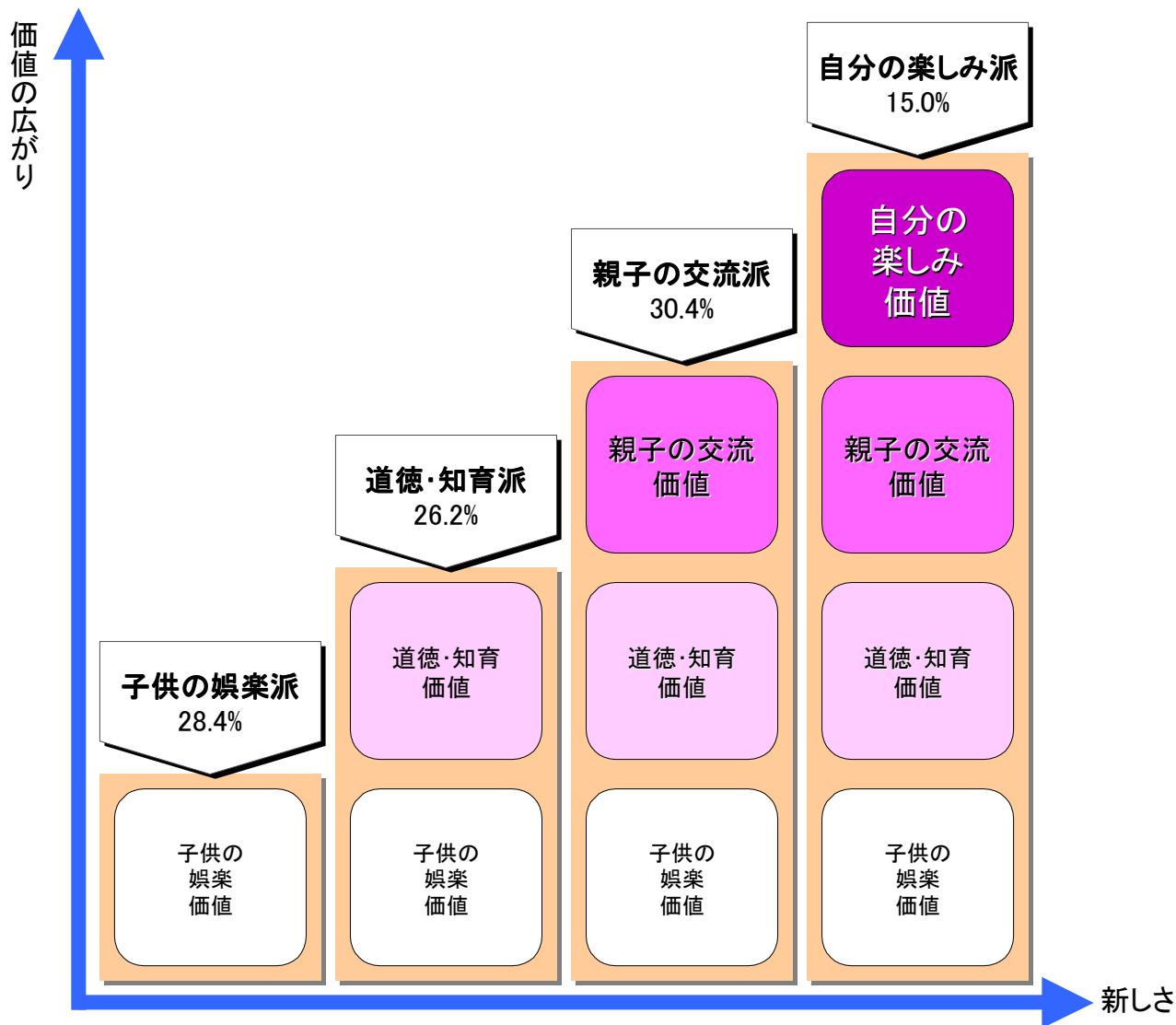
前ページで分類したクラスターの特徴を明確にするために、
クラスター別にどのような「絵本の良さ」を認めているのか、表してみた。

<MA>	(%)	N					
		N=1063	N=302	N=279	N=323	N=159	
	89.7	78.1	90.7	95.4	98.1	子供の 娯楽 価値	
	87.7	69.9	90.3	97.8	96.2		
	76.5	57.6	76.0	86.1	93.7		
	73.5	48.7	69.2	91.3	91.8	道徳・ 知育 価値	
	71.7	40.4	86.4	77.4	93.7		
	67.7	12.9	96.4	83.3	89.9		
	66.4	35.1	57.3	89.5	95.0	親子の 交流 価値	
	52.1	22.2	14.7	93.2	91.2		
	46.4	14.6	11.1	88.5	83.0	自分の 楽しみ 価値	
	33.6	18.5	16.5	38.7	81.8		
	33.4	11.6	19.7	38.1	89.3		
	27.3	8.6	18.6	28.8	74.8		
	24.1	12.3	13.3	14.9	84.3		
	15.6	2.0	3.6	22.3	49.1		
	14.8	8.6	7.2	5.9	57.9		
	14.5	5.3	9.3	7.7	54.7		
	2.3	0.0	1.4	0.9	10.7		
	1.6	0.7	0.7	0.3	7.5		
	1.5	1.0	0.4	1.9	3.8		

※  は30%以上、  は70%以上、  は75%以上。

絵本の価値構造

この結果を図式化してみると、以下のように示すことができる。



- 「子供の娯楽派」は、絵本に対しては、「子供が喜べばそれで十分」という、絵本の本来的な価値にしか気づいていない。
- 「道徳・知育派」になると、これに加えて「教育的要素」も認めるようになる。～ここまでが子供にとっての価値のみ認めている層で、全体の半数強を占める。
- 「親子の交流派」は、親が一方向的に与える価値だけではなく、子供との言葉や感情のやりとりという双発的な価値も認める。
- さらに、「自分にとっての価値」を感じる人たち＝「自分の楽しみ派」も15%存在している。この人たちは、絵本に多くの価値を見出し、絵本が自分自身の生活を豊かにする重要な手段であると考えているようだ。

クラスター特性一覧

絵本の読み聞かせ頻度や購入冊数が多い。絵本に多くの価値を見出し積極的に情報収集するなど、意識面・実態面で絵本市場を引っ張るマーケットドライバー層だと言える。

自分の楽しみ派

子供のためだけでなく自分にとっての価値も求める

絵本は子供のために大切であり、いろいろな絵本を読んであげたい、と思っている。同時に、自分にとっても大事なものであり、自分のセンスにも合うものを選びたい、という気持ちも強い。この人たちは、生活全般においてお仕着せでなく、自分の目で良いものを選び取りたい、と思っている。つまり、絵本もそうした生活意識・行動が反映されたものになっていると言える。

絵本との接触状況

絵本情報をできる限り積極的に集める

絵本を毎日読み聞かせる

1年間に子どもに20冊以上絵本を買った

29%

46%

15%

絵本に求める価値

- 絵本に対して、多くの良さを認めている。特に「自分自身の娯楽」「自分自身の気分転換」「知性が感じられる」「ゆとりが感じられる」「身近な芸術」という項目で群を抜いて高い。
- 子供に対して、様々な絵本を積極的に読んであげたいと思っている。中でも「自分も楽しめる絵柄やストーリーの絵本」「色のきれいな絵本」が、他派に比べて際立って高い。

絵本意識の背景にある価値観・行動

- 子育ての方針としては、子供にとって良いものを選択して与えたい、いろいろなことを体験させてあげたい、という意識・行動傾向が見られる。
- 日常生活においても、良いものを選択し、いろいろなことに積極的に取り組んでいる様子が見られる。

クラスター特性一覧

親子の交流派

親子の言葉や感情の交流を楽しむ

絵本は、子供と上辺のコミュニケーションを図るだけのものではなく、感情の交流を行うものだと思っている。この背景には、“家族の絆を大切にしたい”という願望がある。

12%

37%

9%

道徳・知育派

子供への教育的価値を重視

絵本は、子供の道徳形成・知育に役立つものと認識している。この裏には、何よりも道徳教育が大事だとする子育ての指針がある。

8%

27%

8%

子供の娯楽派

子供が喜べばそれで十分

この人たちは、絵本の価値を掘り下げて聞くと、「子どもにとっての楽しさ」を挙げてくれる。しかし、普通に聞くと明確な傾向は見出せない。絵本への関心は低くはないが、他派に比べると、総じて反応が弱い。それは、生活全般においても、積極的に何かを選択しているわけではないことに起因していると言えそうだ。

7%

22%

8%

●絵本に対して、「自分の楽しみ派」ほどではないが、比較的多くの良さを認めている。特に「子どもの感情が豊かになる」「子どもに愛情/安らぎを与えられる」という項目では、各派の中で最も高い。

●子供に対して積極的に読んであげたい絵本でも、「自分の楽しみ派」に次いで多くの絵本に反応している。特に「親子の会話が弾みそうな絵本」「子どもと一緒に指差したりできる絵本」が比較的高い。

●子育ての方針としては「家族の時間を作るように心がけている」「自分の楽しみ派」と並んで高くなっている。

●絵本の良さの中で「子どもが物事の善悪や人への思いやりを学べる」という項目では、各派中、最も高い。「子どもの感情が豊かになる」「子どもが文字や言葉を覚えられる」も比較的高い。

●子供に積極的に読んであげたい絵本として、「子どもが物事の善悪や人への思いやりを学べる絵本」「子どもの創造力や感受性が豊かになる絵本」「子どもが文字や言葉を覚えられる絵本」、また、具体的なジャンルでは「名作絵本」「ディズニー系絵本」「知育絵本」などが、「自分の楽しみ派」「親子の交流派」並みに高い。

●子供の成長には「物事の善悪をきちんと理解させ、社会のルールを覚えさせること」が最も大事だと思っている。

●絵本の良さ、子供に積極的に読んであげたい絵本、子育ての方針・・・など、いずれの項目に対しても、最も反応が鈍い層である。

●ただし、「絵本の一番良いところ」を聞くと、「子どもが楽しめる」「子どもの好奇心が満たされる」、同様に、「一番読んであげたい絵本」を聞くと、「子どもの好奇心が刺激される絵本」、が各派の中で最も高くなっている。

●日常生活の中で特に大切にしたいものとしては、「趣味・レジャー」が各派の中で最も高い。

調査結果詳細

I

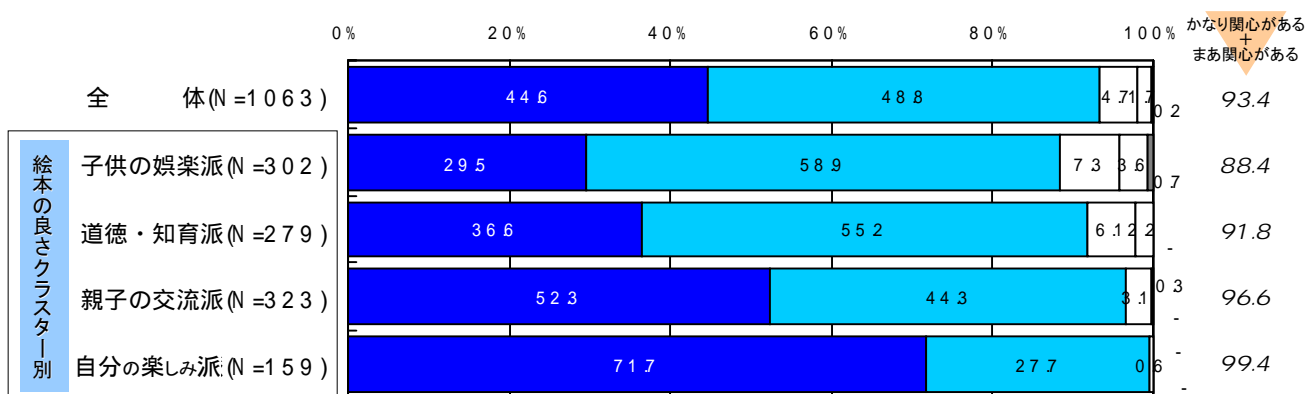
絵本との接触状況

絵本に対する関心度

ほとんどの母親が絵本に関心を持っている

- 全体の93%とほぼ全ての人が絵本に関心をもっている。また、ほぼ半分の45%が「かなり関心がある」と回答し、幼児を持つ母親にとっては大きな関心事の一つだと言える。
- <自分の楽しみ派>は「かなり関心がある」が72%に達しており、とりわけ絵本への関心度が高い層だと言える。
- 最も関心の低い<子供の娯楽派>でも、全体の関心度は90%弱に及ぶ。絵本への関心は幅広い層に及んでいることがわかる。

■ かなり関心がある ■ まあ関心がある □ どちらとも言えない □ あまり関心はない ■ まったく関心はない



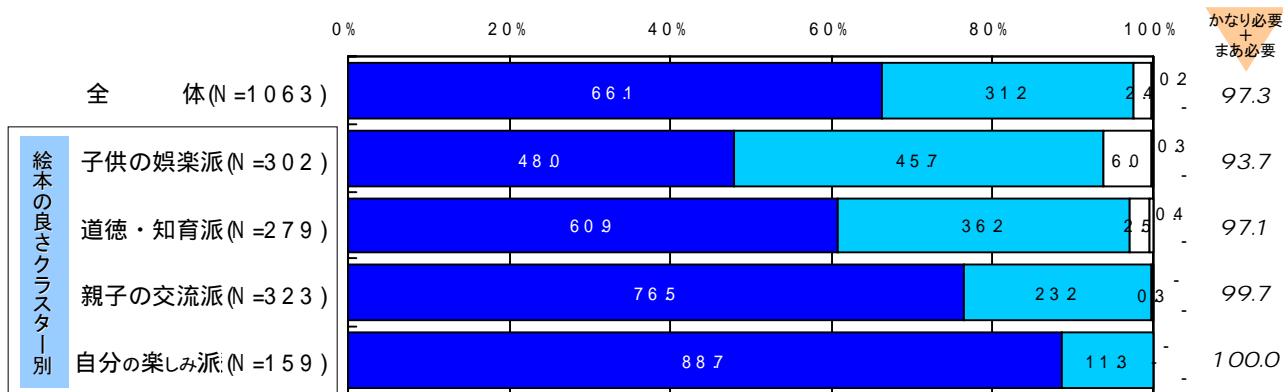
絵本の必要度

ほぼ全員にあたる97%が絵本を必要だと回答

- 全体の97%が絵本を必要なものであると回答し、改めて幼児を持つ母親にとっての必需品であるということが検証された。
- <自分の楽しみ派>においては「かなり必要である」が89%に達しており、「父親」と並んでいるなど、とりわけ絵本の必要度が高い層である。

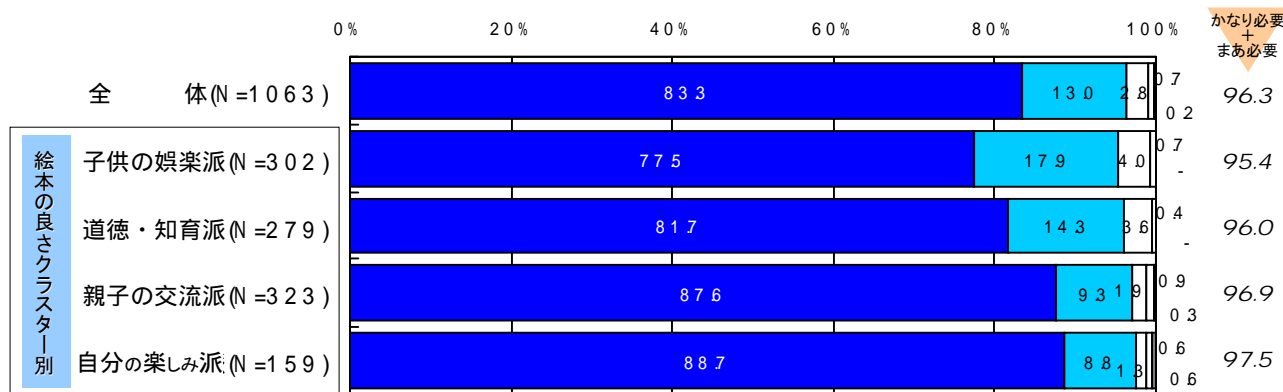
絵本の必要度

■ かなり必要である ■ まあ必要である □ どちらとも言えない □ あまり必要ではない ■ まったく必要ではない



父親の必要度

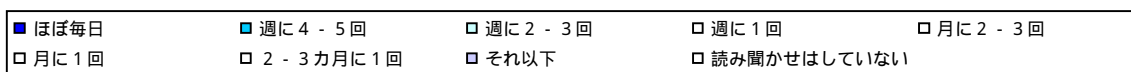
■ かなり必要である ■ まあ必要である □ どちらとも言えない □ あまり必要ではない ■ まったく必要ではない



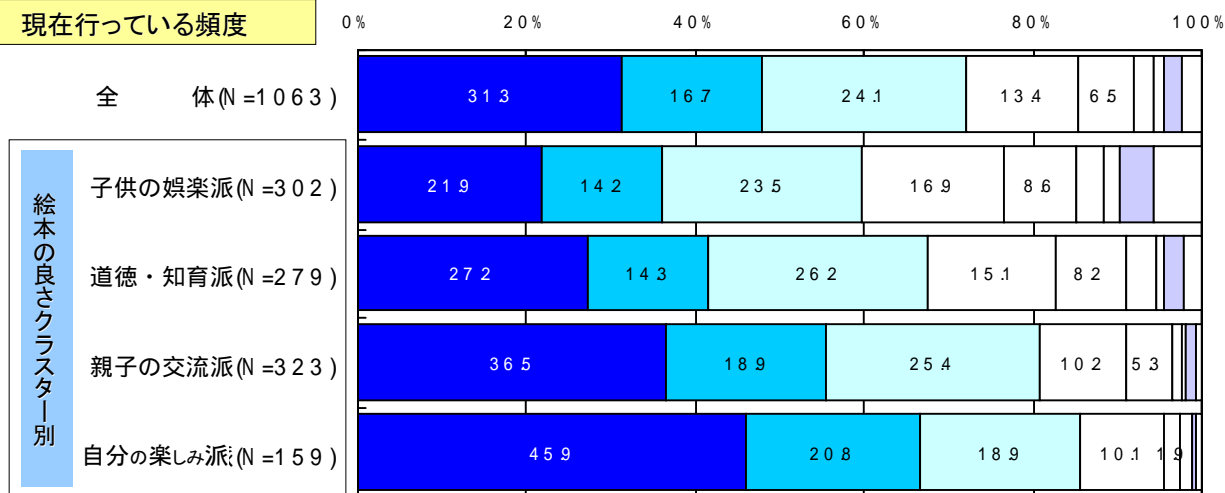
絵本の読み聞かせ頻度(現在/意向)

現在1/3が「ほぼ毎日」だが、理想的には2/3が「ほぼ毎日」読んでもあげたい

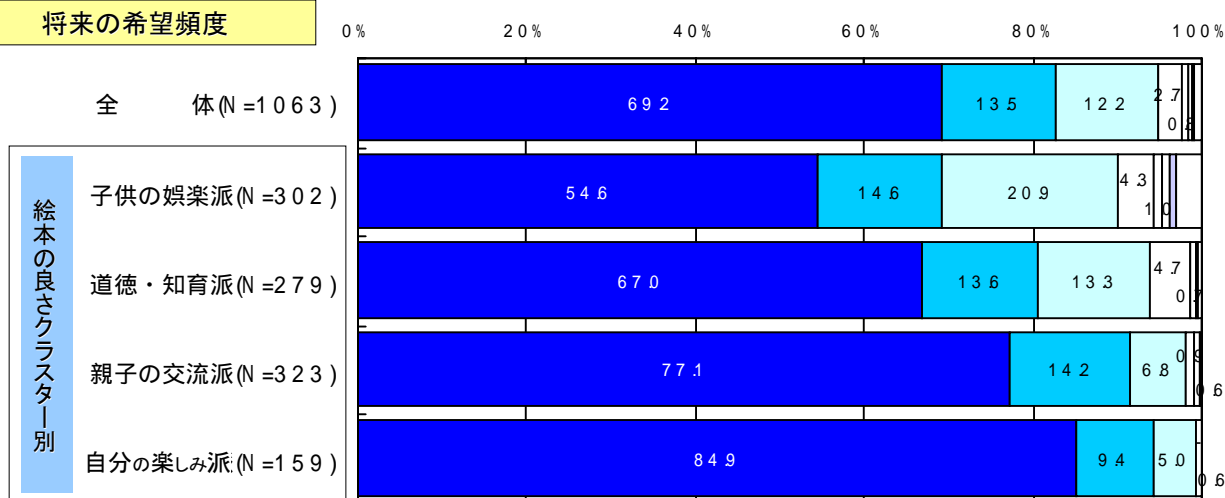
- 現在、全体の31%が「ほぼ毎日」行っていると回答。「週4回以上」は48%とほぼ半数で、「週1回以上」では86%を占めている。
- 特に＜自分の楽しみ派＞において頻度が高く、「ほぼ毎日」が46%、「週1回以上」読み聞かせているのは96%に達する。
- 今後の意向としては、全体では69%が「ほぼ毎日」、83%は「週4回以上」を希望している。
- クラスター別では、現在の頻度とほぼ同様の傾向で、＜自分の楽しみ派＞において「ほぼ毎日」への希望が85%を占める。また、各グループともに「週2回以上」で9割を超える。



現在行っている頻度



将来の希望頻度

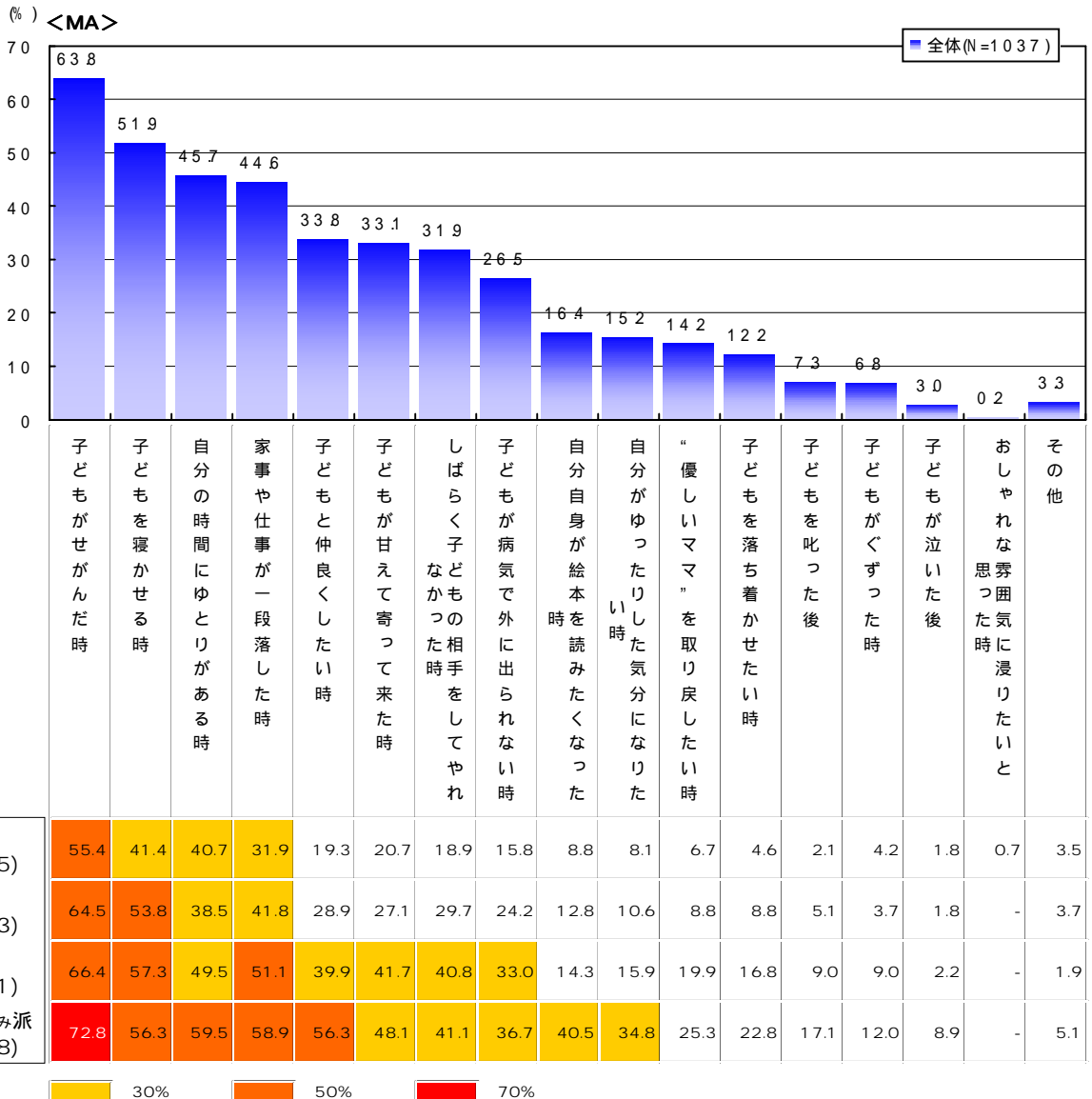


絵本を読んであげる場面

母親から能動的に読んであげる場面も4割以上

- 絵本を読んであげる場面としては、全体で「子どもがせがんだ時」が64%で最も多く、続く「寝かせる時」が52%と半数を超える。「自分の時間にゆとりがある時」46%、「家事や仕事が一段落した時」45%といった、親から能動的に行うシーンも4割以上から挙げられた。
- <自分の楽しみ派>においては、他グループに比べ各項目で回答率が高く、様々なシーンで絵本を読んであげている様子が窺える。また「自分自身が絵本を読みたくなくなった時」や「自分がゆとりしたい時」といった“自分のため”に行うシーンはとりわけ他グループよりも高い。

※ 現在、子供に絵本の読み聞かせをしている人へ聴取。



30% 50% 70%

1年間の絵本購入冊数(子供向け/自分向け)

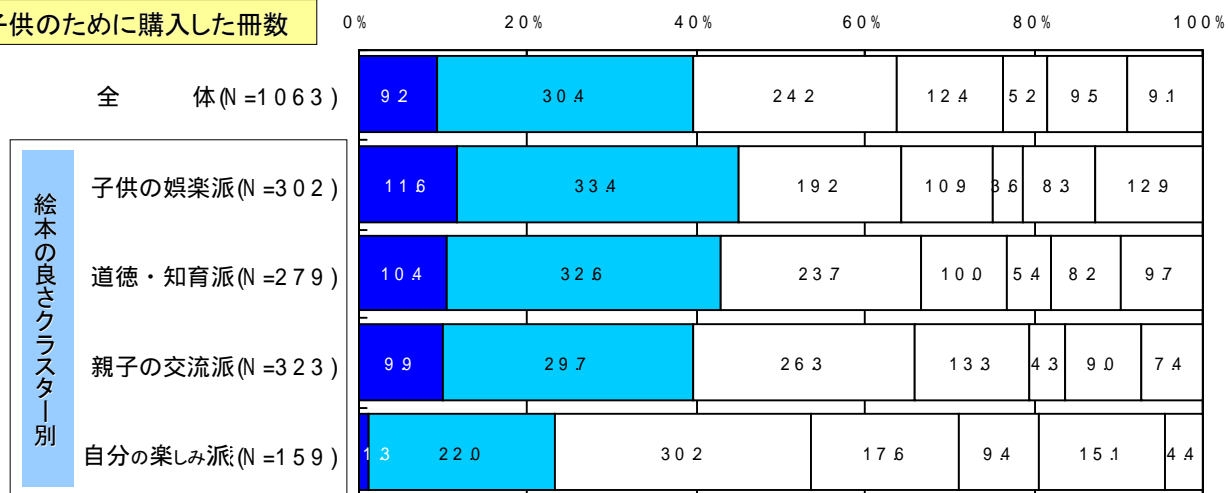
子供向け:「3~5冊」「6~10冊」で半数強

自分向け: <自分の楽しみ派>では半数以上が購入

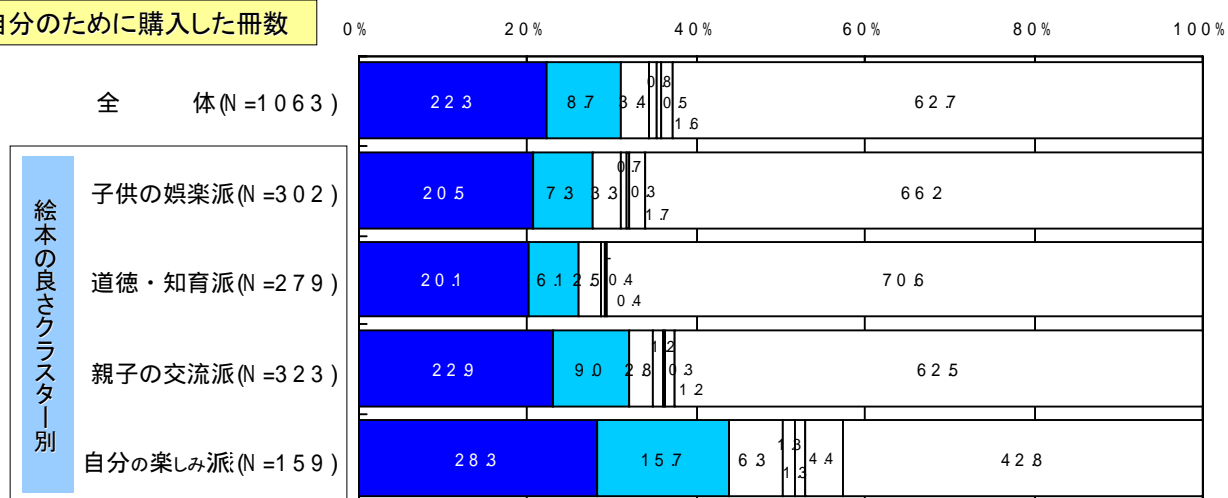
- 過去1年間での絵本の購入冊数は、子供向けの場合、全体で「3~5冊」30%、「6~10冊」24%という層のボリュームが厚い。
- <自分の楽しみ派>では、「20冊以上」購入者が15%（「11冊以上」では42%）と高い。
- 自分向けの場合は、全体では22%が「1~2冊」、63%は「買わなかった」と回答。
- 子供向け同様、<自分の楽しみ派>での購入率が高く、「1~2冊」28%、「3~5冊」16%と他グループを上回り、購入者が半数を超える。

■ 1~2冊 ■ 3~5冊 □ 6~10冊 □ 11~15冊 □ 16~20冊 □ 20冊以上 □ 自分では絵本は買わなかった

子供のために購入した冊数



自分のために購入した冊数



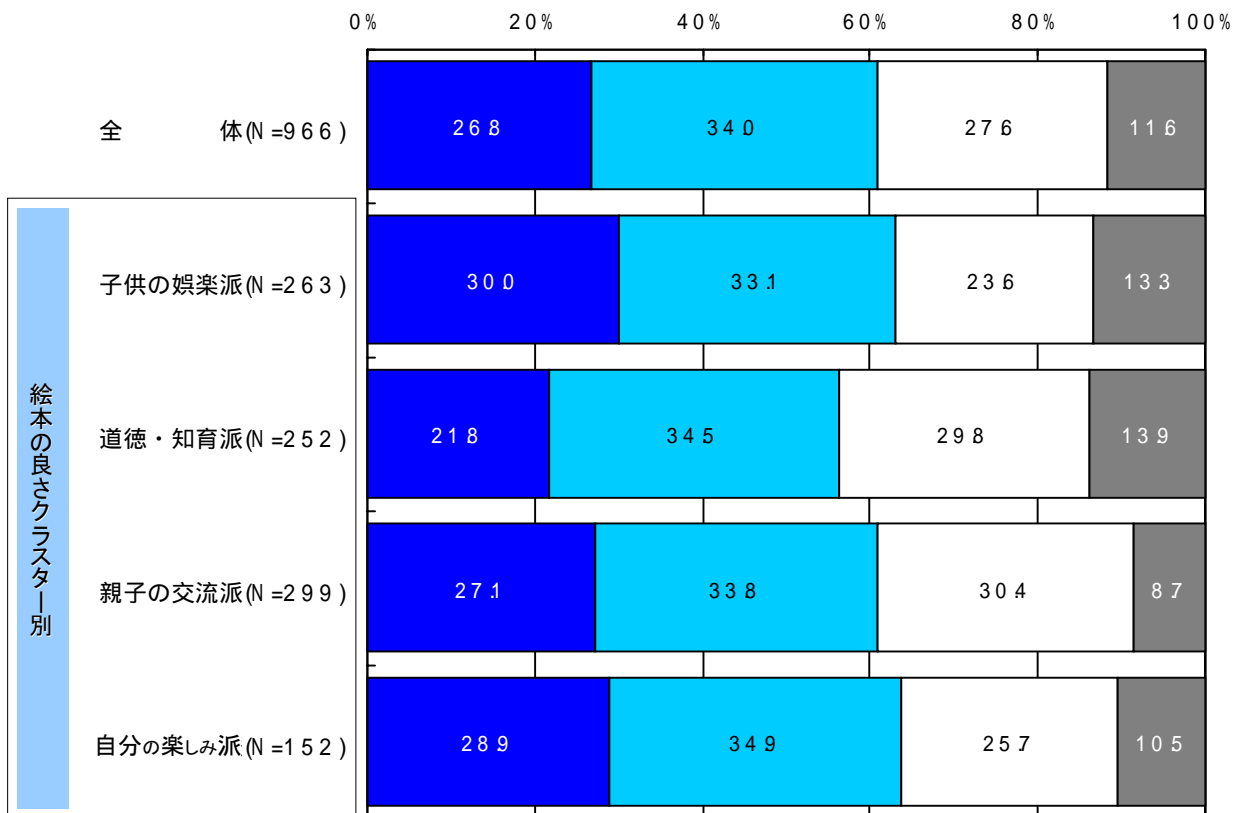
子供向け絵本の買い方

絵本選びは、親主導の方が多い

●絵本購入時の買い方で一番近いものを挙げてもらったところ、「自分が選んだもので子ども気に入ったら」という意見が全体の34%、「自分が選んで」は27%で、まず親が選ぶケースが6割。また「子どもが選んだものは自分が気に入らなくても」という回答は1割強に留まり、絵本選びに対する親の関与度は高い。

※ この1年間に、子供のために1冊以上の絵本を購入した人へ聴取。

■自分が選んで買う
 □子どもが選んだもので、自分も気に入ったら買う
 ■自分が選んだもので、子どもも気に入ったら買う
 ■子どもが選んだものは、自分が気に入らなくても買う



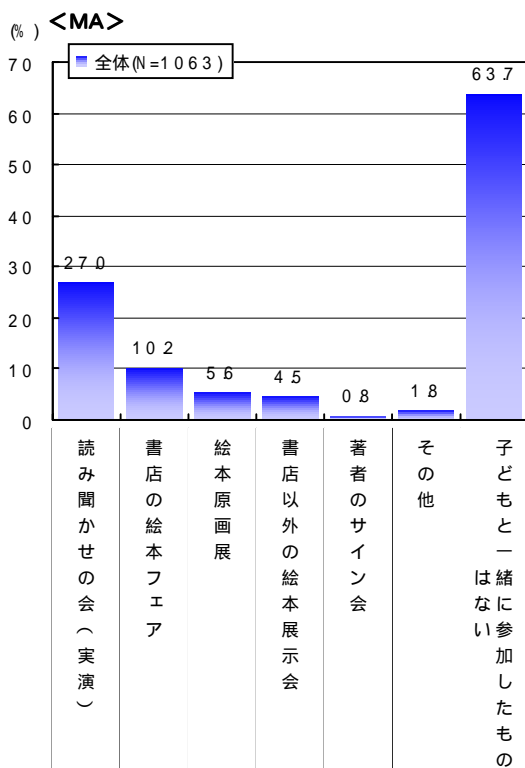
絵本関連イベント参加状況(経験/意向)

経験: <自分の楽しみ派>では半数が何らかのイベントに参加
意向: 全体の3/4近くは何らかのイベントに参加意向あり

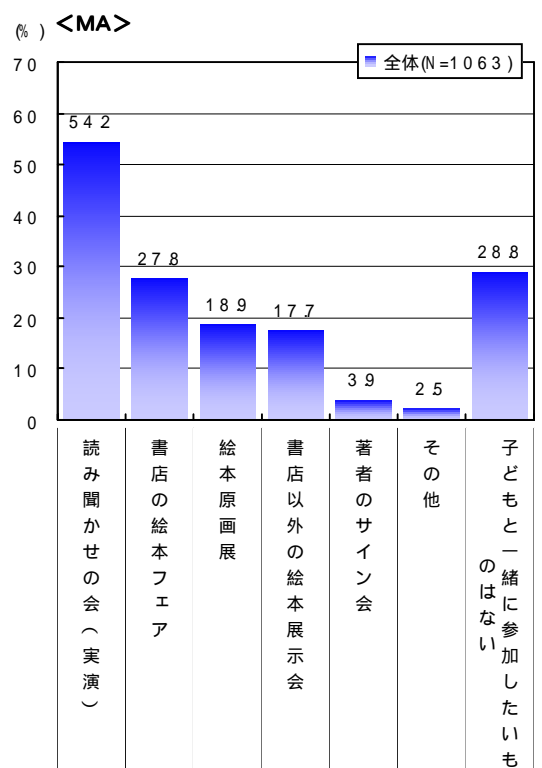
●これまでに子供と一緒に参加したものとしては、全体で「読み聞かせの会(実演)」27%、「書店の絵本フェア」10%が多くなっている。64%は「参加したものはない」。また今後の意向としては、「読み聞かせの会(実演)」が半数以上の54%。以下、「書店の絵本フェア」28%、「絵本原画展」19%、「書店以外の絵本展示会」18%と続く。

●<自分の楽しみ派>においては、各種イベントへの参加経験・参加意向ともに全体と比べて高い。特に参加意向は各イベントで他グループを大きく上回り、「読み聞かせの会(実演)」69%、「書店の絵本フェア」47%となっている。「参加したいものはない」は15%と低い。

子供と一緒に参加した絵本関連のイベント



今後子供と一緒に参加したい絵本関連のイベント



絵本の良さクラスター別	N	子供と一緒に参加した絵本関連のイベント (%)							今後子供と一緒に参加したい絵本関連のイベント (%)						
		読み聞かせの会(実演)	書店の絵本フェア	絵本原画展	書店以外の絵本展示会	著者のサイン会	その他	子どもと一緒に参加したもの	読み聞かせの会(実演)	書店の絵本フェア	絵本原画展	書店以外の絵本展示会	著者のサイン会	その他	子どもと一緒に参加したいもの
(N=302)		17.5	8.3	4.0	2.6	0.7	1.0	72.8	41.7	18.5	12.6	9.9	1.7	0.7	41.4
(N=279)		25.4	5.4	3.6	2.9	0.4	1.8	67.4	50.5	25.1	17.9	15.1	2.2	2.9	30.8
(N=323)		32.5	12.4	4.0	5.0	0.6	2.2	58.8	61.9	29.1	17.3	20.1	2.2	3.4	22.0
自分の楽しみ派(N=159)		36.5	17.6	15.1	10.1	1.9	2.5	49.7	68.6	47.2	35.8	32.1	14.5	3.8	15.1

30% 50% 70%

絵本情報収集の積極度&情報入手経路

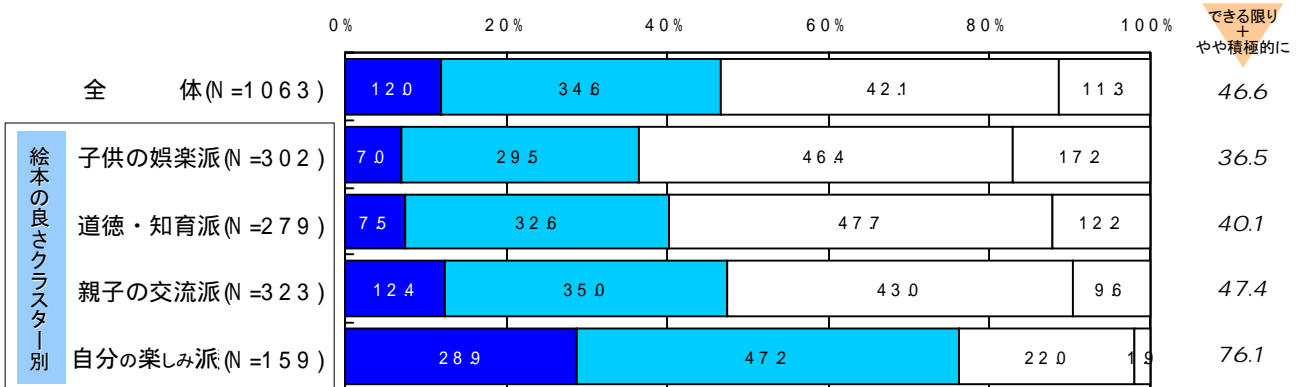
全体の約半数が、積極的に情報を収集

情報源は、3/4が「書店」、「図書館」「インターネット」も半数近くに

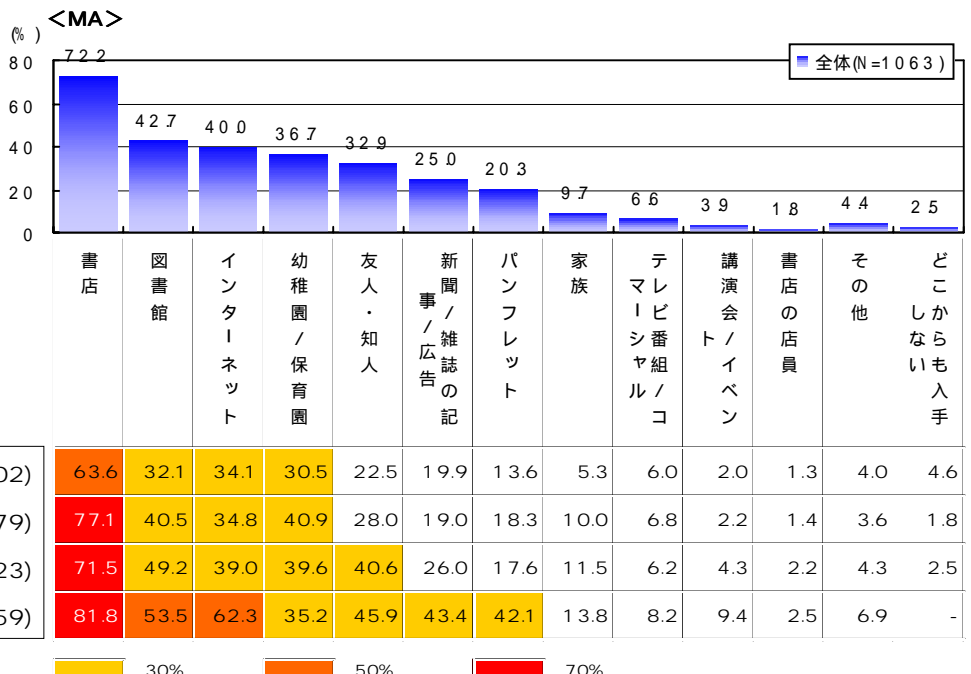
- 絵本に関する情報については、「できる限りいろいろと情報を集める」は12%、「やや積極的に情報を集める」は35%で、全体の約半数が積極的に収集している。
- <自分の楽しみ派>においては、「できる限りいろいろと」が29%、「やや積極的に」が47%で、全体と比べ積極派が占める割合が高くなっている。
- 絵本に関する情報源としては、最も多いのが「書店」で全体の72%から、2番目には「図書館」43%で、絵本実物と接触できるものが上位に挙がっている。
- <自分の楽しみ派>では、「書店」82%に次いで「インターネット」62%が高く、また全般的に各媒体からの情報収集も高めになっている。

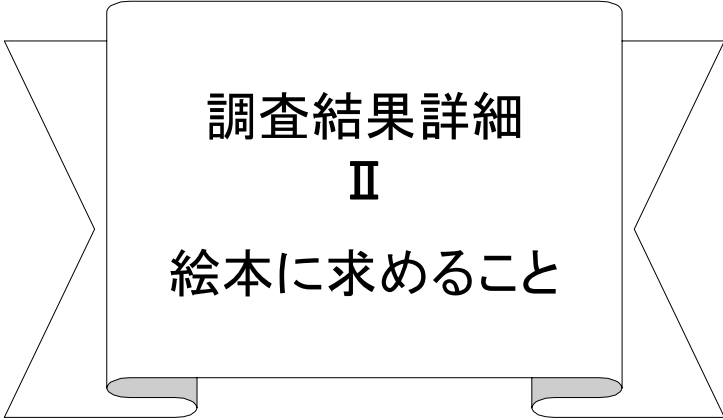
絵本情報収集の積極度

■ できる限りいろいろと情報を集める ■ やや積極的に情報を集める □ たまたま見たり聞いたりしたものだけ □ ほとんど情報は入手しない



絵本に関する情報源





調査結果詳細

Ⅱ

絵本に求めること

絵本とはどのようなものか

全体では「想像力・創造力・空想力がつくもの」という認識が強く出ている

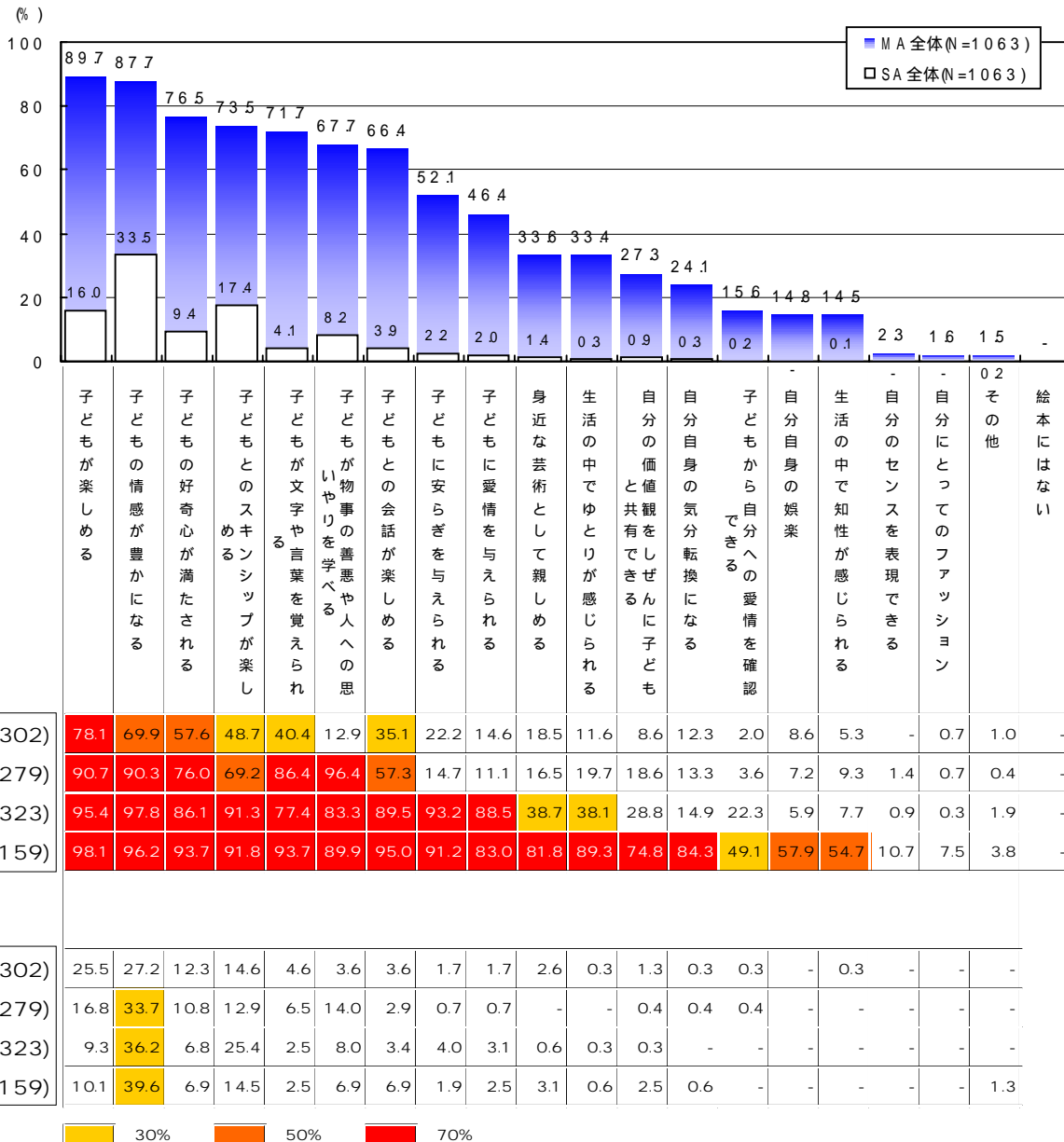
●全体の28%が「想像力・創造力・空想力がつく/豊かになる」と回答。続いて「子どもとのコミュニケーション」20%、「色々と学べる」19%が多く挙げられており、こういった要素が絵本の基本的価値として認識されていることがわかる。

<FA>	絵本の良さクラスター別				
	全体 N=1063	N=302	N=279	N=323	自分の楽しみ派 N=159
	28.1	23.2	31.9	29.7	27.7
	19.8	13.6	16.1	26.6	23.9
Net	19.3	12.6	25.8	18.9	21.4
	10.5	7.3	14.0	11.5	8.8
	3.4	1.0	3.9	5.0	3.8
	7.3	4.3	10.4	5.9	10.7
	17.5	9.9	16.8	21.4	25.2
	15.9	8.3	15.4	21.4	20.1
	9.3	7.9	5.7	11.1	14.5
	8.8	6.3	6.5	11.8	11.9
	8.1	8.6	7.5	6.5	11.3
	7.9	6.0	10.4	7.7	7.5
	7.3	4.6	9.0	7.1	10.1
	5.9	7.3	5.4	5.0	6.3
	5.1	5.6	3.6	4.0	8.8
	5.0	6.0	3.9	5.0	5.0
	4.2	2.6	3.2	4.6	8.2
	3.6	3.0	3.2	3.7	5.0
	2.6	2.3	2.9	2.2	3.8
	2.0	2.3	1.4	1.2	3.8
	15.2	16.6	15.8	12.4	17.6

絵本の良さ

一番強く認識されている良さは「情感が豊かになる」 <自分の楽しみ派>はさまざまな良さを認識している

- 絵本の良さ(複数回答)としては、全体で「子どもが楽しめる」90%、「情感が豊かになる」88%、「好奇心が満たされる」77%までがトップ3。それ以下の項目を総合してみると、子供が満足する(楽しめる)ことに加え、情操教育の一環として、また子供と親のコミュニケーションツールとして支持されていることがわかる。
- <自分の楽しみ派>においては、ほとんどの項目について評価が高くなっているが、特に「自分自身の娯楽」「自分自身の気分転換」「生活の中で知性/ゆとりが感じられる」など自分にとっての価値要素に関して他属性よりも大きく上回っていることが目につく。
- 絵本の一番の良さ(単数回答)としては、「子どもの情感が豊かになる」が全体の34%から挙げられてトップ。次いで「スキンシップが楽しめる」17%、「子どもが楽しめる」16%といった順。
- 全てのグループにおいて「情感が豊かになる」が最も多い回答となっている。



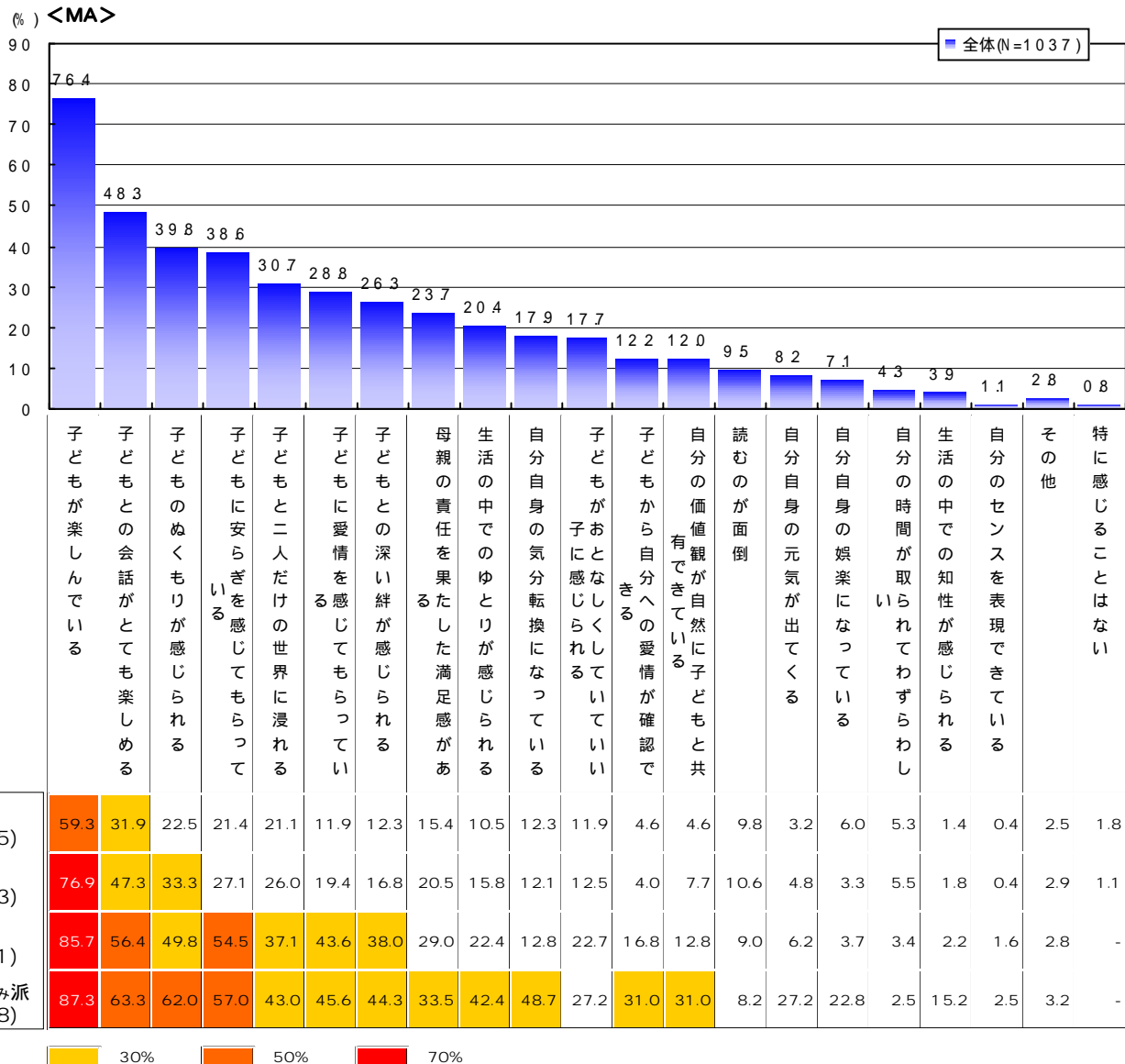
絵本を読んであげる時に感じること

<自分の楽しみ派>は絵本を読むことで子供との強い繋がりを感じ、同時に自分のためにもなっていると感じている

●絵本を読んであげている時には、全体の76%が「子どもが楽しんでいる」ことを感じると回答。他には「子どもとの会話がとても楽しめる」48%、「子どものぬくもりが感じられる」40%、「子どもに安らぎを感じてもらっている」39%などが上位に挙がっている。

●<自分の楽しみ派>においては全般的に回答率が他グループに比べ高くなっている。特に「生活の中でのゆとりが感じられる」「自分自身の気分転換になっている」を始め、「自分自身の元気が出てくる」「娯楽になっている」といった項目においてその差が顕著であり、自分のためになっているという意識の強さが窺われる。

※ 現在、子供に絵本の読み聞かせをしている人へ聴取。



子供に積極的に読んであげたい絵本

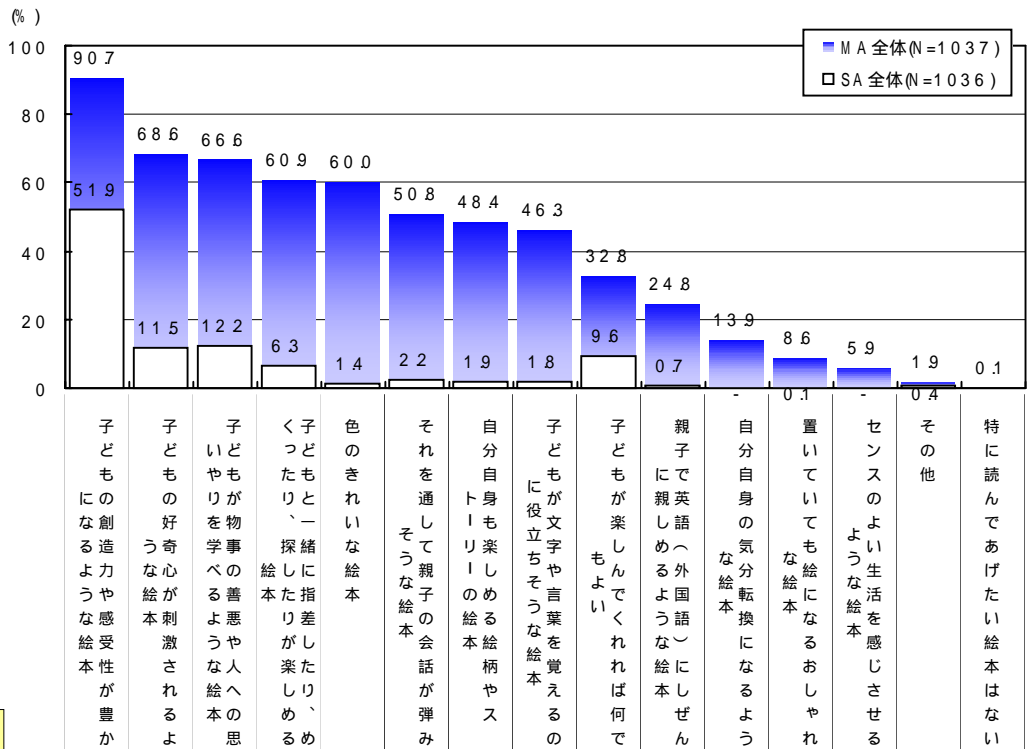
「創造力や感受性が豊かになる」は90%が支持

＜自分の楽しみ派＞はさまざまな絵本を読んであげたい意向

●積極的に読んであげたい絵本としては、「創造力や感受性が豊かになる」が最も多く、全体の91%（一番読んであげたい：単数回答で52%）が挙げている。次いで「子どもの好奇心が刺激される」69%、「物事の善悪や人への思いやりを学べる」67%、「子どもと一緒に指差したり、めくったり、探したりが楽しめる」61%、「色のきれいな絵本」60%までが6割以上。

●＜子供の娯楽派＞は「創造力や感受性」に集中している一方、＜自分の楽しみ派＞は「子どもと一緒に指差したり、めくったり、探したりが楽しめる」「色のきれいな絵本」「自分も楽しめる絵柄やストーリー」など幅広いタイプの絵本を読んであげたいと考えている。

※ 現在、子供に絵本の読み聞かせをしている人へ聴取。



子供に読んであげたい絵本(MA)

絵本の良さ クラスター別	(N=285)	(N=273)	(N=321)	自分の楽しみ派 (N=158)
創造力や感受性が豊かになる	78.6	52.6	34.4	45.3
好奇心が刺激される	43.2	27.7	31.6	28.4
物事への善悪や人への思いやりを学べる	43.2	27.7	31.6	28.4
子どもと一緒に指差したり、めくったり、探したりが楽しめる	43.2	27.7	31.6	28.4
色のきれいな絵本	43.2	27.7	31.6	28.4
それを通して親子の会話が弾むような絵本	43.2	27.7	31.6	28.4
自分自身も楽しめる絵柄やストーリーの絵本	43.2	27.7	31.6	28.4
子どもが文字や言葉を感じるのに役立つような絵本	43.2	27.7	31.6	28.4
子どもが楽しんでくれば何でもよい	43.2	27.7	31.6	28.4
親子で英語（外国語）にしゃべれるような絵本	43.2	27.7	31.6	28.4
自分自身の気分転換になるような絵本	43.2	27.7	31.6	28.4
置いても絵になるおしゃれな絵本	43.2	27.7	31.6	28.4
センスのよい生活を感じさせるような絵本	43.2	27.7	31.6	28.4
その他	43.2	27.7	31.6	28.4
特に読んであげたい絵本はない	43.2	27.7	31.6	28.4

子供に一番読んであげたい絵本(SA)

絵本の良さ クラスター別	(N=284)	(N=273)	(N=321)	自分の楽しみ派 (N=158)
創造力や感受性が豊かになる	44.0	16.2	8.5	8.1
好奇心が刺激される	16.2	8.5	8.1	1.8
物事への善悪や人への思いやりを学べる	16.2	8.5	8.1	1.8
子どもと一緒に指差したり、めくったり、探したりが楽しめる	16.2	8.5	8.1	1.8
色のきれいな絵本	16.2	8.5	8.1	1.8
それを通して親子の会話が弾むような絵本	16.2	8.5	8.1	1.8
自分自身も楽しめる絵柄やストーリーの絵本	16.2	8.5	8.1	1.8
子どもが文字や言葉を感じるのに役立つような絵本	16.2	8.5	8.1	1.8
子どもが楽しんでくれば何でもよい	16.2	8.5	8.1	1.8
親子で英語（外国語）にしゃべれるような絵本	16.2	8.5	8.1	1.8
自分自身の気分転換になるような絵本	16.2	8.5	8.1	1.8
置いても絵になるおしゃれな絵本	16.2	8.5	8.1	1.8
センスのよい生活を感じさせるような絵本	16.2	8.5	8.1	1.8
その他	16.2	8.5	8.1	1.8
特に読んであげたい絵本はない	16.2	8.5	8.1	1.8

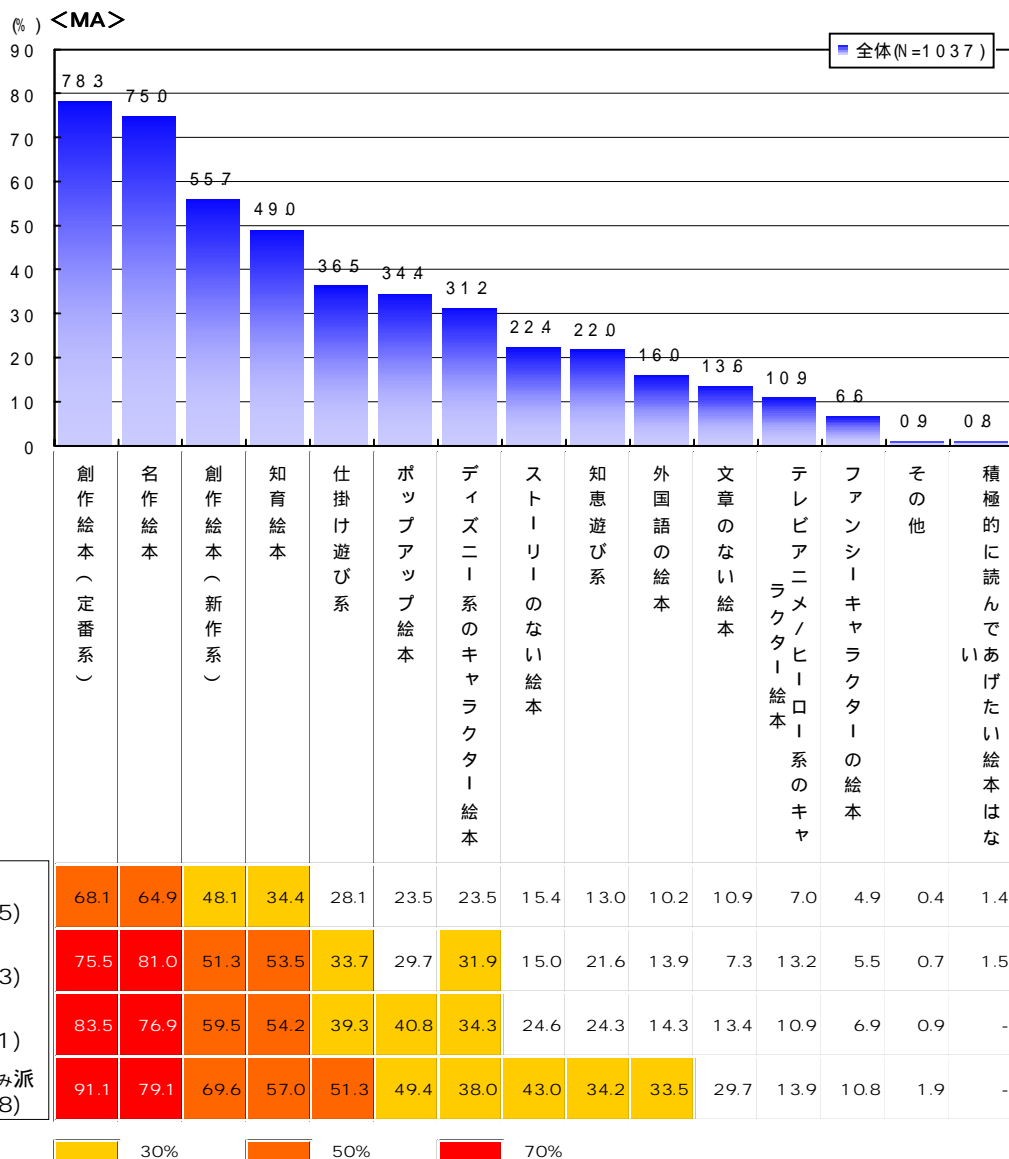
30% 50% 70%

子供に積極的に読んであげたい絵本のジャンル

「創作絵本(定番系)」「名作絵本」を3/4が挙げる

- 積極的に読んであげたい絵本のジャンルとしては、「創作絵本(定番系)」がトップで全体の78%。続く「名作絵本」も75%と高い回答率。以下は「創作絵本(新作系)」56%、「知育絵本」49%、「仕掛け遊び系」37%、「ポップアップ絵本」34%と続く。
- <自分の楽しみ派>では、「仕掛け遊び系」「ポップアップ」「ストーリーのない」「知恵遊び系」といった、読んで聞かせる以外にも楽しめる絵本へのニーズも強い。

※ 現在、子供に絵本の読み聞かせをしている人へ聴取。



お気に入りの絵本

「ぐりとぐら」「はらぺこあおむし」が多い

- お気に入りの絵本には、実に様々なタイトルが挙げられ、圧倒的人気と言えるほどの1冊は見受けられなかった。その中で「ぐりとぐら」を始め「はらぺこあおむし」「いないいないばあ」といったタイトルが比較的多く挙げられている。
- お気に入りの理由としては、「子どもが大好き・気に入っている」が最も多く全体の25%、次いで「面白い・楽しい」13%、「イラスト・キャラクターがかわいい／きれい／面白い」12%と続き、「学べる」9%が4番目。
- <自分の楽しみ派>では「面白い・楽しい」「イラスト・キャラクターがかわいい／きれい／面白い」が、<道徳・知育派>では「学べる」への回答率が、他グループに比べやや高い。

【本の名前】 ※ 現在、子供に絵本の読み聞かせをしている人へ聴取。

<FA>

全体 N=1037

絵本の良さクラスター別

	全体 N=1037			絵本の良さクラスター別			
	0%	30%	60%	子供の N=284	N=274	N=320	自分の 楽しみ派 N=159
8.5	■			8.1 (1)	8.4 (1)	7.8 (1)	10.7 (1)
5.5	■			6.0 (2)	5.5 (2)	5.0 (2)	5.7 (2)
3.0	■			4.2 (3)	1.1 (8)	3.4 (3)	3.1 (3)
2.1	■			2.1 (4)	1.8 (4)	2.5 (5)	1.9 (7)
1.7	■			1.4 (7)	1.1 (8)	2.2 (6)	2.5 (5)
1.6	■			0.7 (10)	1.5 (5)	2.2 (6)	2.5 (5)
1.6	■			2.1 (4)	1.5 (5)	1.3 (11)	1.9 (7)
1.4	■			1.1 (9)	1.1 (8)	0.9 (12)	3.1 (3)
1.3	■			1.8 (6)	0.4 (13)	1.9 (8)	0.6 (11)
1.2	■			0.4 (13)	0.7 (11)	2.8 (4)	- (14)
1.2	■			0.7 (10)	2.2 (3)	0.9 (12)	0.6 (11)
1.2	■			0.7 (10)	1.5 (5)	0.9 (12)	1.9 (7)
1.1	■			1.4 (7)	0.4 (13)	1.6 (10)	0.6 (11)
1.0	■			- (14)	0.7 (11)	1.9 (8)	1.3 (10)
54.9	■			50.0	56.9	55.9	57.9
2.2	■			3.5	1.8	2.2	0.6

【お気に入りの理由】 ※ 現在、子供に絵本の読み聞かせをしている人へ聴取。

<FA>

全体 N=1037

絵本の良さクラスター別

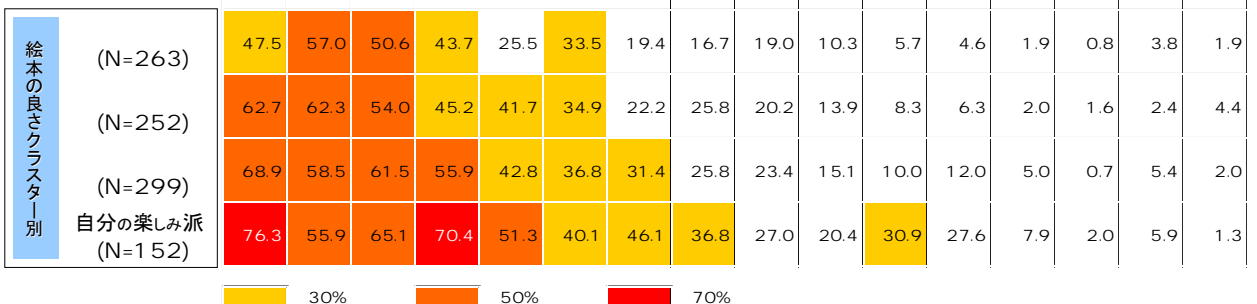
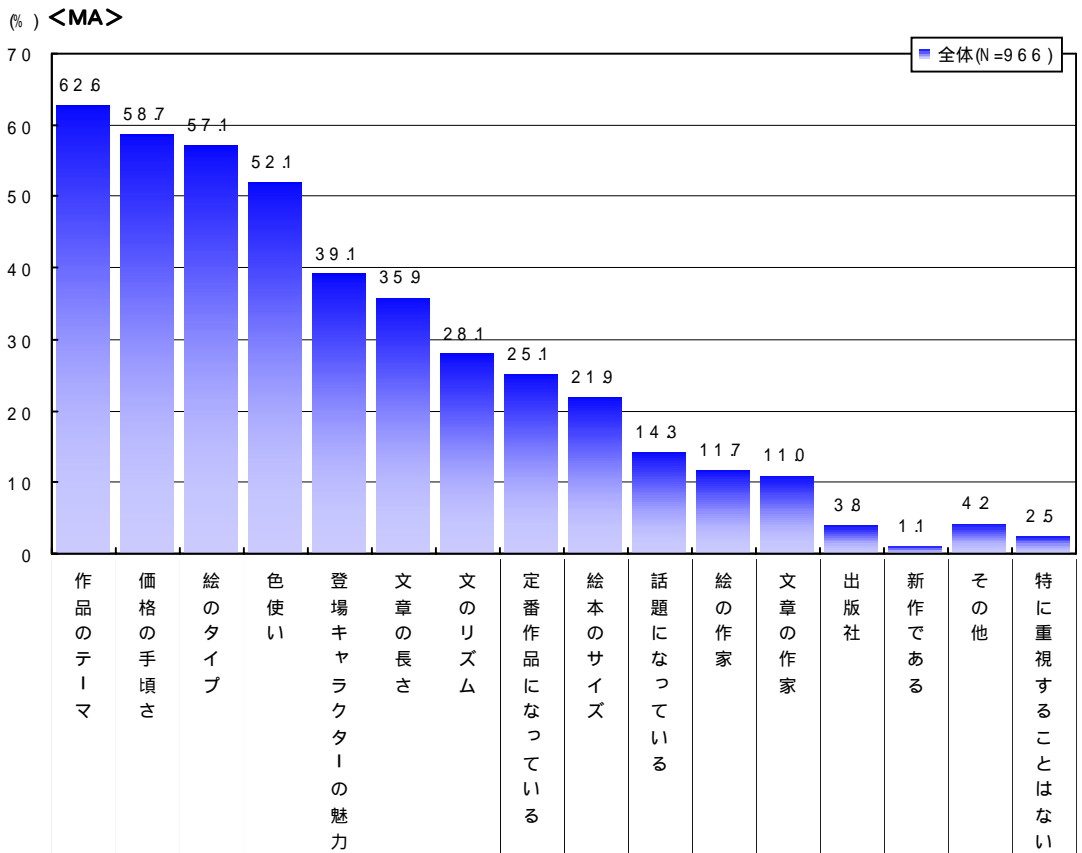
	全体 N=1037			絵本の良さクラスター別			
	0%	20%	40%	子供の N=284	N=274	N=320	自分の 楽しみ派 N=159
25.2	■			22.9	24.8	28.8	22.6
12.9	■			11.6	12.8	11.9	17.6
12.0	■			8.1	12.8	11.9	17.6
8.7	■			4.9	12.0	9.7	7.5
7.4	■			7.0	6.2	8.1	8.8
5.7	■			6.3	6.6	3.8	6.9
5.5	■			5.3	4.7	5.3	7.5
4.8	■			3.9	4.4	6.3	4.4
4.6	■			2.1	5.1	6.6	4.4
3.6	■			2.8	2.2	5.3	3.8
3.5	■			2.1	5.5	3.1	3.1
3.3	■			3.2	2.6	3.1	5.0
3.0	■			2.1	2.6	4.4	2.5
2.5	■			1.8	1.8	2.8	4.4
2.3	■			2.8	1.5	1.3	5.0
2.2	■			2.1	1.8	2.2	3.1
2.1	■			1.8	2.2	2.8	1.3
1.9	■			1.8	1.1	2.8	1.9
24.0	■			20.8	21.2	25.6	31.4
1.3	■			2.5	1.5	0.3	0.6

子供向け絵本の購入重視点

「作品のテーマ」「価格の手頃さ」「絵のタイプ」「色使い」が半数を超える

- 絵本購入時の重視ポイントとしては、「作品のテーマ」が全体の63%でトップ。2番目には「価格の手頃さ」が59%から挙げられ、続く「絵のタイプ」57%、「色使い」52%といった内容面での要素を若干上回る。
- <自分の楽しみ派>においては、「作品のテーマ」以外に「色使い」や「絵のタイプ」への重視度も高く、また「価格の手頃さ」を除く全ての項目で他グループを上回る(特に「絵・文章の作家」「文のリズム」で、他グループとの差が顕著)。

※ この1年間に、子供のために1冊以上の絵本を購入した人へ聴取。



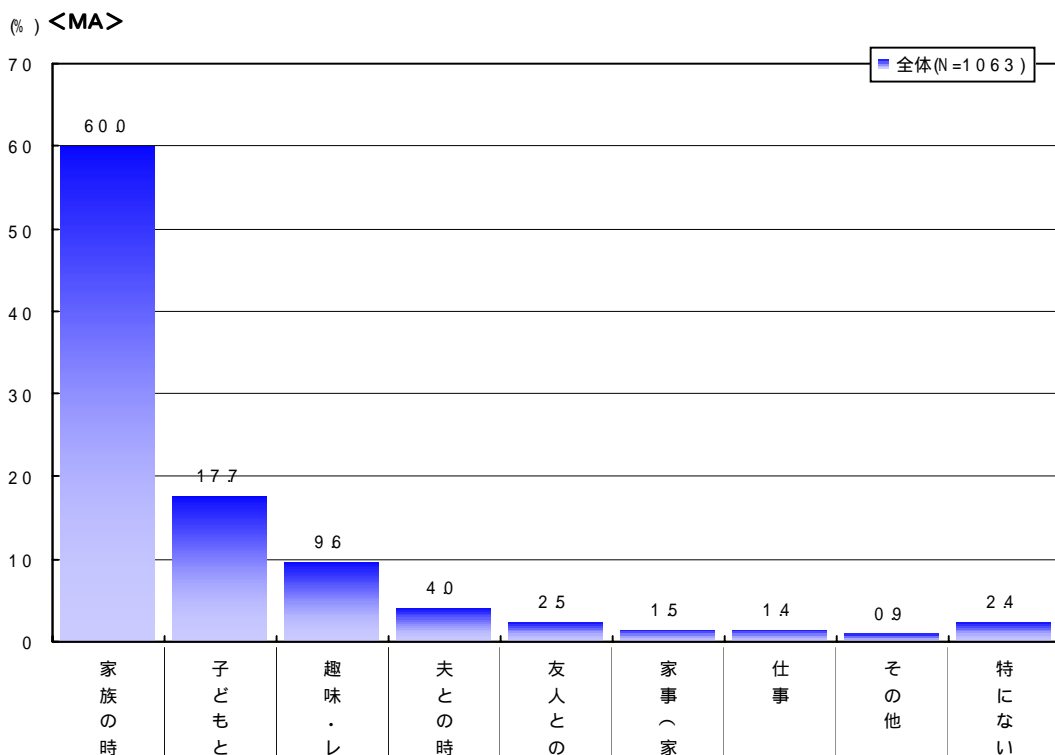
調査結果詳細
Ⅲ

絵本意識の背景に
ある価値観・行動

日常生活の中で特に大切にしたいと思うこと

「家族の時間」が最も大切

●日常生活の中で特に大切にしたいものとして、全体の60%が「家族の時間」と回答。「子どもとの時間」が18%で2番目に多く、これらを合わせた8割近くが子供を含めた家族コミュニケーションの時間を重視していると考えられる。まさに、ここに「絵本」が入り込んでいると言える。



絵本の良さクラスター別	家族の時間	子どもとの時間	趣味・レジャー	夫との時間	友人との付き合い	家事（家庭運営）	仕事	その他	特にない
(N=302)	53.3	16.9	13.9	5.0	2.0	1.7	2.6	1.3	3.3
(N=279)	59.1	18.6	9.0	2.9	4.7	1.4	1.1	0.7	2.5
(N=323)	66.3	17.3	6.5	2.8	2.2	0.9	0.9	1.2	1.9
自分の楽しみ派 (N=159)	61.6	18.2	8.8	6.3	0.6	2.5	0.6	-	1.3

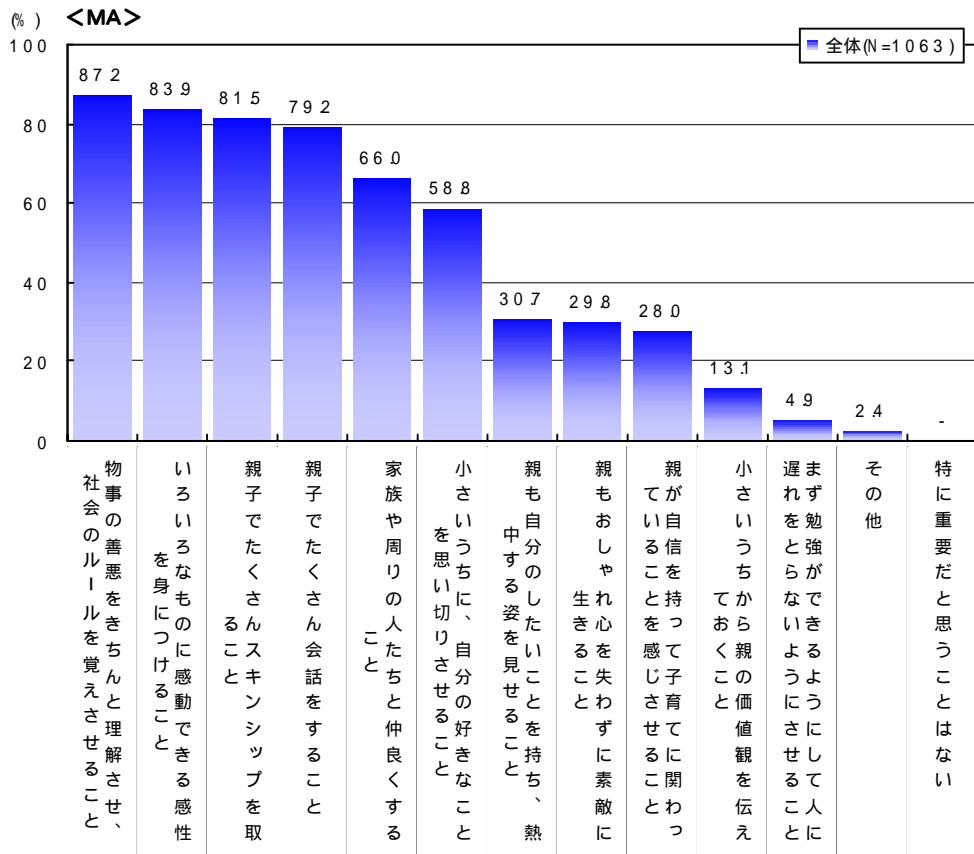
30% 50% 70%

子供の成長のために重要だと思うこと

<自分の楽しみ派>では、善悪の理解・感性の育成・スキンシップなどに加え、自分の生き方や姿勢を見せることを重視

●子供の成長のために重要だと思うことは、「物事の善悪を理解し、社会のルールを覚える」87%、「感動できる感性を身につける」84%、「親子でたくさんスキンシップを取る」82%、「親子でたくさん会話をする」79%といった項目が、全体の8~9割程度から挙げられている。このあたりは絵本の基本的な価値と一致する。

●<自分の楽しみ派>では、「親の熱中する姿を見せる」「親が自信を持って子育てに関わっていることを感じさせる」など、親の姿勢を重視する傾向が特に強く見られる。



絵本の良さクラス別	社会の善悪をきちんと理解させ、ルールを覚えさせること	いろいろなものに感動できる感性を身につけること	親子でたくさんスキンシップを取ること	親子でたくさん会話をする	家族や周りの人たちと仲良くすること	小さいうちに、自分の好きなことを思い切りさせること	親も自分のしたいことを持ち、熱中する姿を見せること	親もおしゃれな生きること	親が自信を持って子育てに関わっていること	小さいうちから親の価値観を伝えること	遅れずを勉強が得意になるようにさせてこたに	その他	特に重要だと思うことはない
(N=302)	76.8	67.9	67.5	62.9	45.7	50.3	18.5	21.5	14.9	6.0	3.0	1.3	-
(N=279)	93.5	89.6	81.7	80.6	67.7	57.0	26.5	25.8	22.6	11.5	5.4	1.4	-
(N=323)	90.1	88.9	89.5	87.0	75.9	60.1	33.1	33.7	32.8	13.3	4.6	2.5	-
自分の楽しみ派(N=159)	89.9	94.3	91.2	91.8	81.8	75.5	56.0	44.7	52.8	28.9	8.2	5.7	-

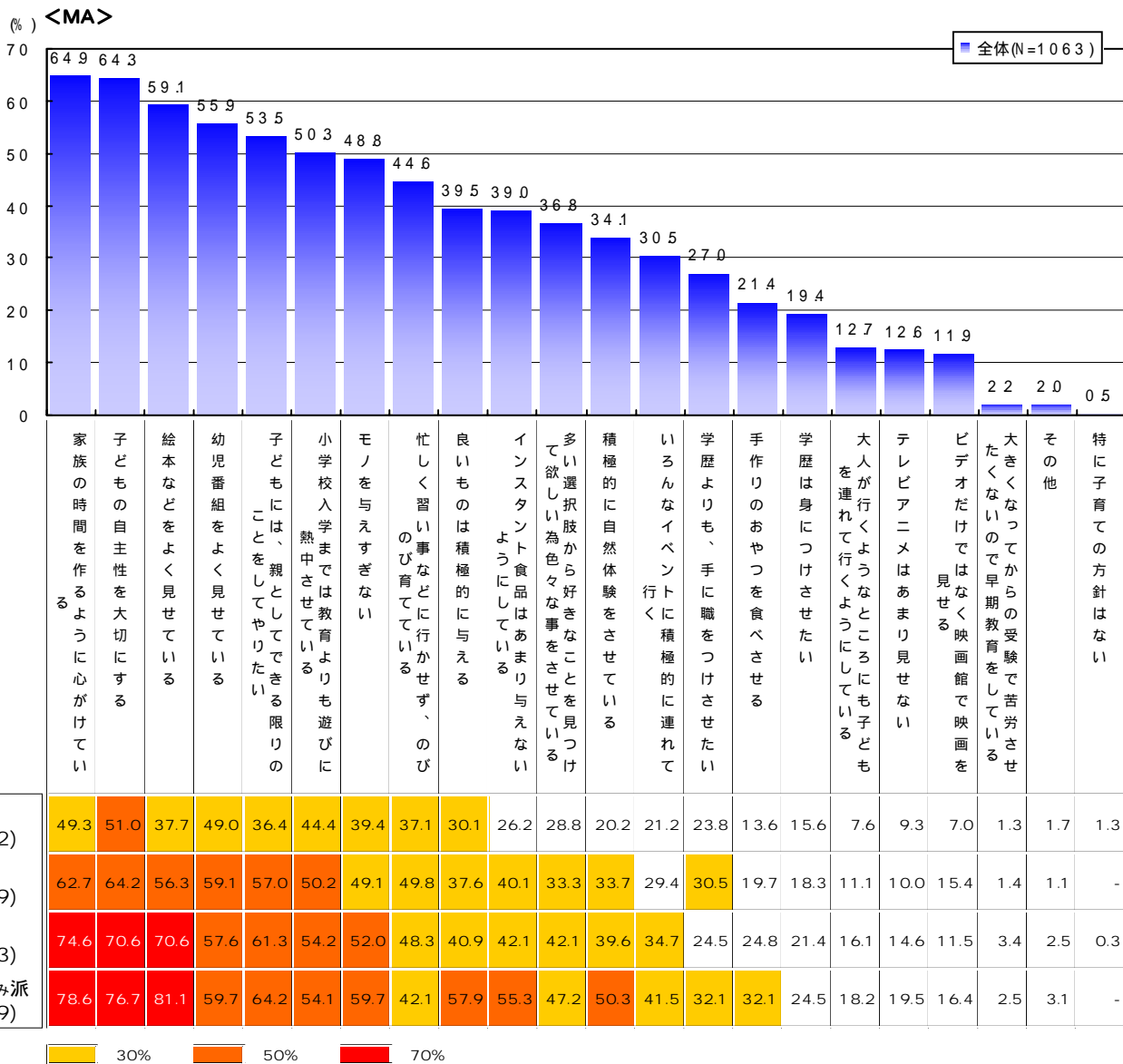
30% 50% 70%

子育ての方針

<自分の楽しみ派>は「良いものを選んであげたい」「いろいろな体験をさせたい」という意識が強い

●子育ての方針については、全体で「家族の時間を作る」65%、「子どもの自主性を大切にする」64%、「絵本などをよく見せている」59%がトップ3。以下「幼児番組を見せている」56%、「できる限りのことをしてやりたい」54%、「小学校入学までは教育より遊びに」50%までが半数以上から。子供の自主性を大切にしたいと思う裏には、できる限りのことをしてあげたい、という意識がある。

●<自分の楽しみ派><親子の交流派>においては、全体でのトップ3項目への回答率も7~8割と高い。特に<自分の楽しみ派>では「良いものは積極的に与える」「インスタント食品は与えない」「積極的に自然体験をさせている」といった項目が目立って高くなっている。ここには、親として、子供にとって良いものを選択して与えたい、いろいろなことを体験させてあげたい、という意識があるように思われる。



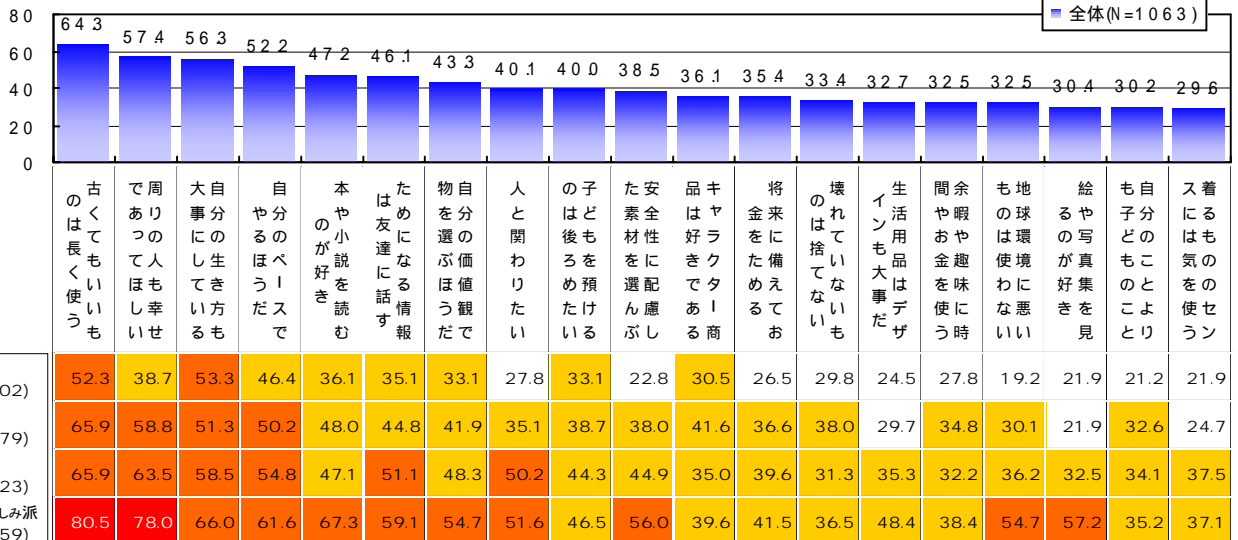
日常生活における意識や行動

<自分の楽しみ派>は、自分のペースを大事にしながらも、周囲への意識も持っている

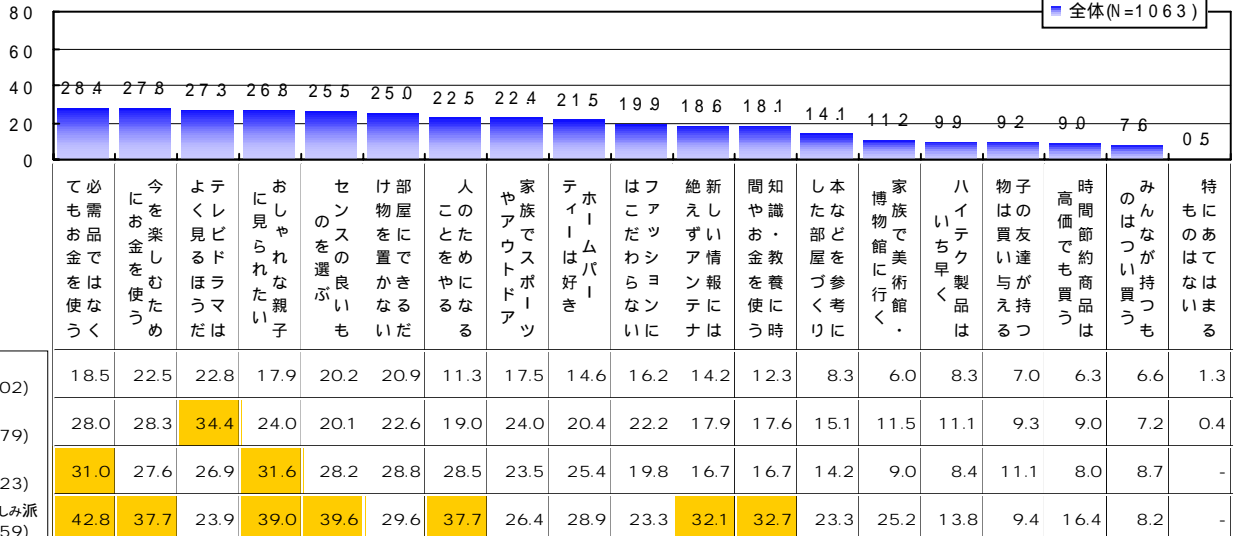
●日常生活における意識や行動については、全体で「古くてもいいものは長く使う」が64%で最も多く、次いで「自分だけでなく周りの人も幸せであってほしい」57%、「子どもは大事だが自分の生き方も大事」56%、「自分のやりたいことを自分のペースでやる」52%までが半数以上から挙げられた。

●<自分の楽しみ派>では、ほとんどの項目で他グループを上回るが、中でも「絵や写真集／本や小説が好き」「地球環境に悪いものは使わない」を始め、「古くてもいいものは長く使う」「生活用品はデザインも大事」「必需品でなくても生活が潤うならお金を使う」などへの意識が全体と比べて高く、「生活の質」へのこだわり、「環境」への配慮がうかがえる。また「周りの人も幸せであってほしい」という意識も特に強い。

(%) <MA>



(%)

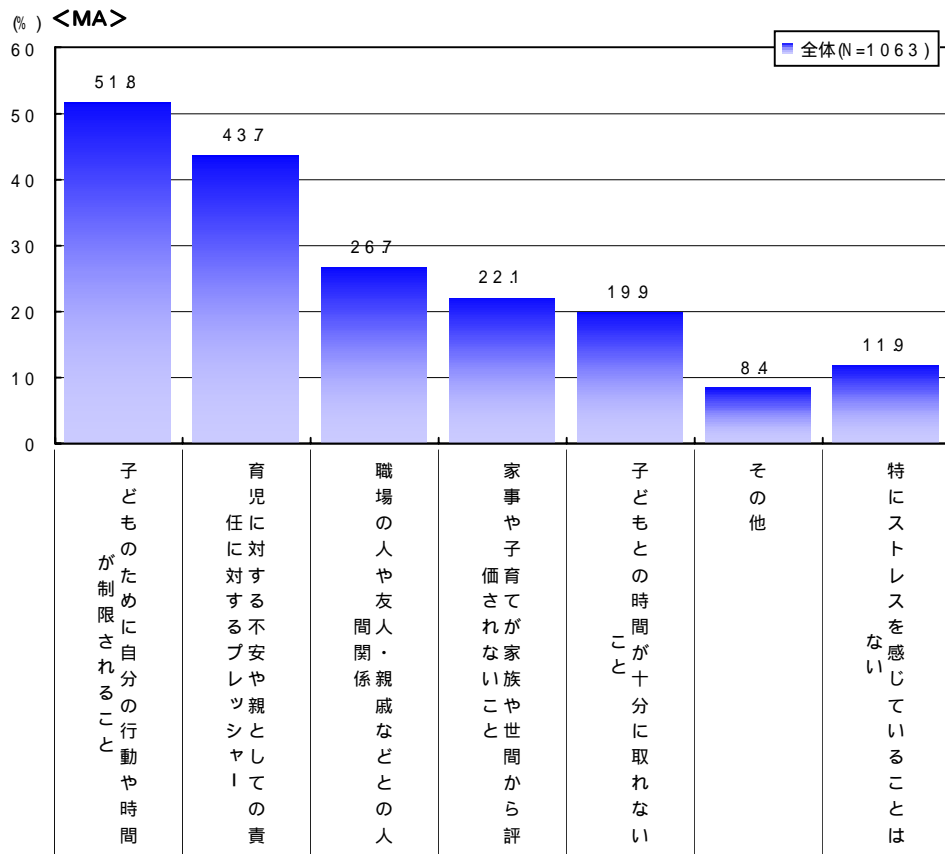


30% 50% 70%

普段感じているストレス

「子どものために行動や時間が制限される」ことが、最も大きなストレス

● 普段特に強く感じるストレスとしては、「子どものために自分の行動や時間が制限される」が全体の半数以上の52%から挙げられて最も多い。続いて「育児に対する不安や親としての責任に対するプレッシャー」が44%から。「特にストレスを感じていることはない」は1割程度で、9割近くが何かしらのストレスを抱えている。

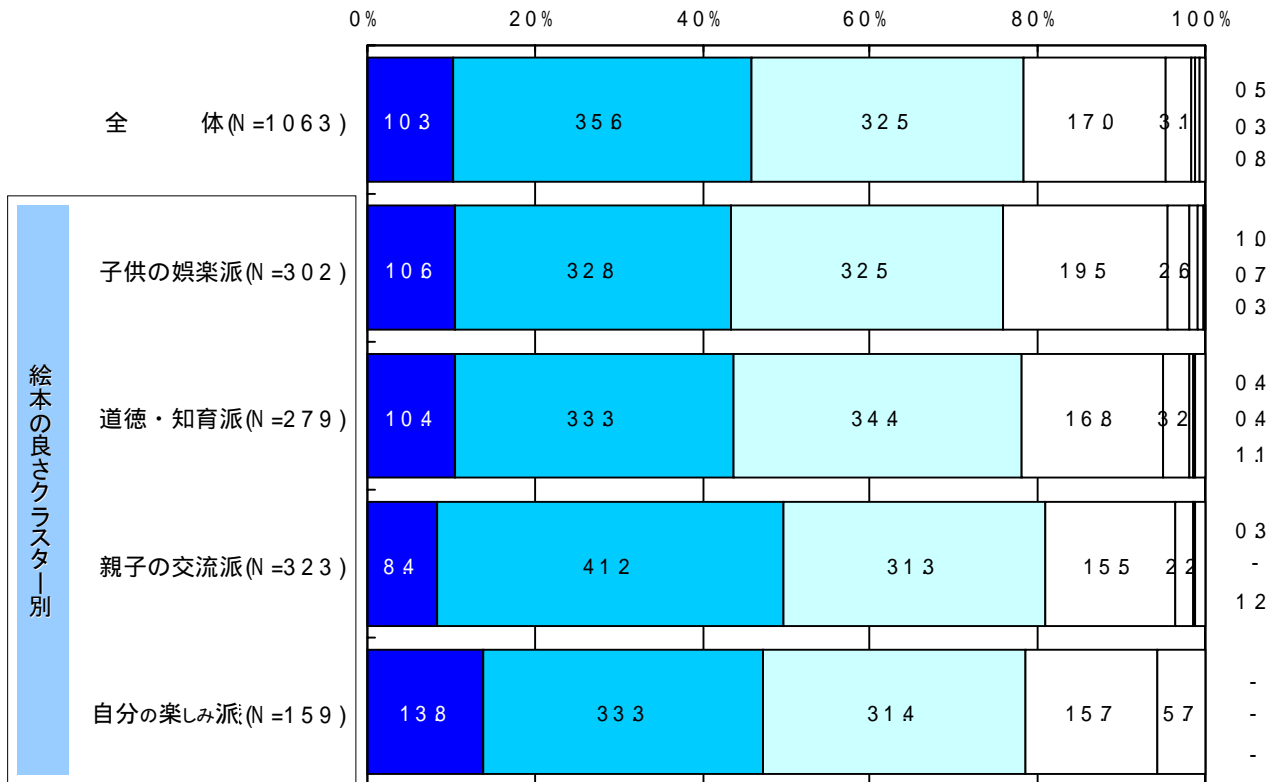
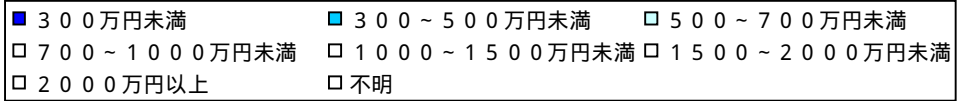


絵本の良きクラスター別	サンプル数	ストレス要因別の割合 (%)						
		子どものために自分の行動や時間が制限されること	育児に対する不安や親としての責任に対するプレッシャー	職場の人や友人関係・親戚などとの人間関係	家事や子育てが家族や世間から評価されにくいこと	子どもの時間が十分に取れないこと	その他	特にストレスを感じていることはない
自分の楽しみ派	(N=302)	50.3	39.1	22.2	23.2	18.5	7.6	13.6
	(N=279)	53.4	45.5	30.5	18.6	19.0	8.2	10.0
	(N=323)	50.2	44.6	23.5	21.7	19.8	9.0	12.1
自分の楽しみ派	(N=159)	55.3	47.2	35.2	27.0	24.5	8.8	11.3

30% 50% 70%

フェイスシート

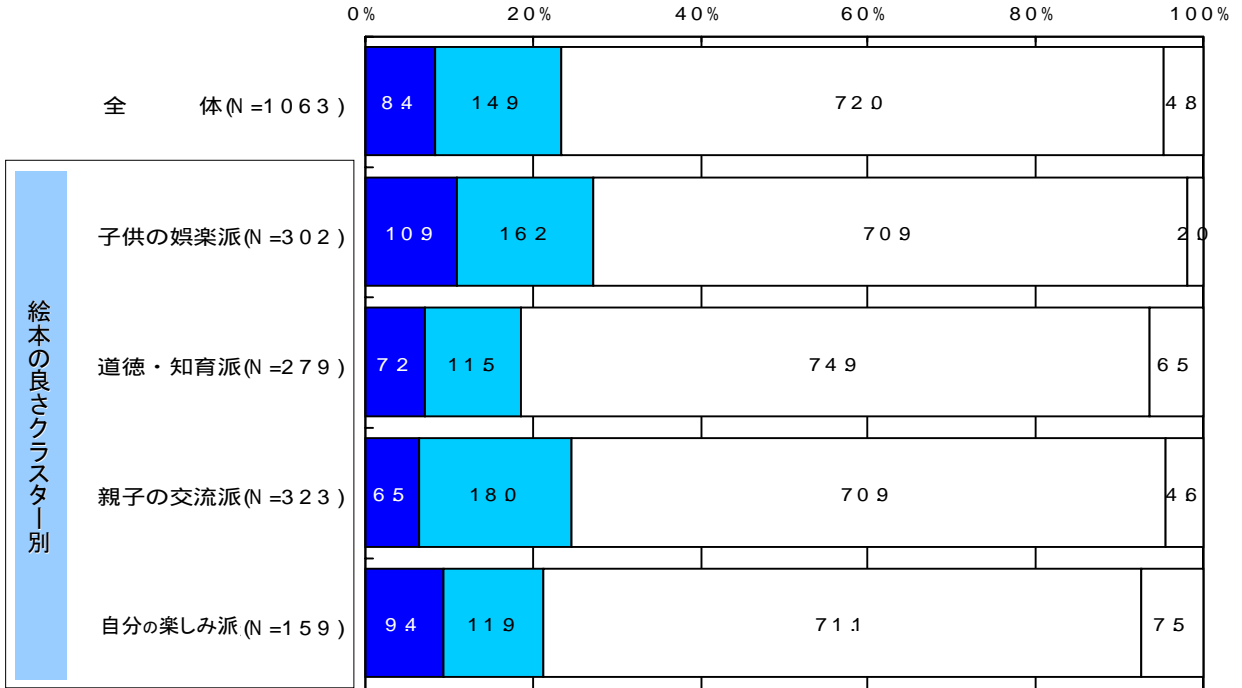
世帯年収



フェイスシート

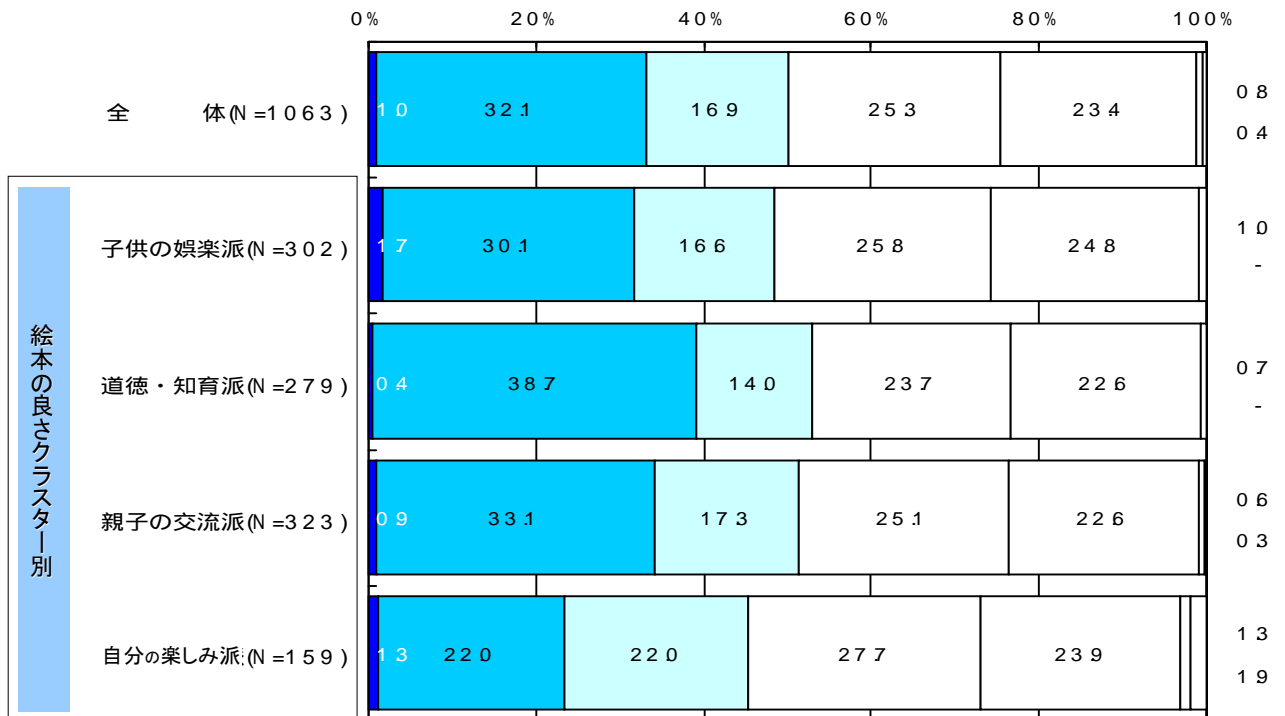
職業

■フルタイム ■パートタイム □専業主婦 □その他



最終学歴

■中学校 ■高校 □専門学校 □短期大学 □4年制大学 □大学院 □その他



バンダイキャラクター研究所 時代レポート Vol.5

「母親としての自分」を表現し始めた女性たち

～絵本ブームに見る、新しい母親像～
「新しい絵本意識に関する調査」結果報告書

発行日 2003年10月6日
編集・発行 株式会社バンダイ キャラクター研究所
〒111-8081
東京都台東区駒形2-5-4
〔TEL〕03-3847-8201
〔FAX〕03-3847-8203
〔URL〕<http://www.chara-labo.com>

*無断転載を禁じます

このレポートに関するお問い合わせ

株式会社バンダイ キャラクター研究所
関 悦子
TEL. 03-3847-8201
E-mail.e-seki@bandai.co.jp

